

海老名市政アンケート調査

明日へ！未来へ！！東日本へ！！！！
海老名の元気をとどけよう！



海老名市イメージキャラクター えび~にゃ

〈平成23年度〉

海老名市

はじめに

近年、社会情勢が大きく変化し、市民の皆様の行政に対するニーズも多様化している中で、地方自治体にはこうした変化に的確に対応するための行財政体制の整備・確立が課題となっております。

また、地方分権や市町村合併などが進展するとともに将来的な人口の減少が明らかになっている中、地方自治体には都市間競争を勝ち抜くことができる戦略的なまちづくりが必要とされております。

こうした中で、市政に対する市民意識の傾向を把握するとともに、市民の意見・要望を的確にとらえて、市の実施計画や施策事業に反映させるため、定期的に「市政アンケート調査」を実施しております。

この報告書は、本年5月、18歳以上の市民の中から等間隔単純無作為方式で抽出した2,000人の方に調査協力をお願いし、回答いただいた結果を分析したものです。

今回の調査では、前回調査した「定住性・生活環境」、「防火・防災」、「広報・情報化」、「都市ブランド」、「少子化対策」、「環境・資源対策」などに関する項目に、「健康」の新しいテーマを加えて実施いたしました。

調査結果につきましては、市政を進めていくための基礎資料として活用させていただきます。

今回の調査に当たりまして、ご協力いただきました市民の皆様に厚くお礼申し上げますとともに、今後も市政に対する一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。

平成23年9月

海老名市長 内野 優

目 次

I. 調査の概要	1
II. 調査票・単純集計結果	
1. 調査票と単純集計結果	3
III. 調査結果の分析	
1. 調査回答者の特性	16
2. 定住性・生活環境	
(1) 居住年数	19
(2) 定住意向・転出意向	20
(3) 市内に住みたい理由	21
(4) 市外に移りたい理由	22
(5) 生活環境と施策の満足度	23
3. 防火・防災	
(1) 東日本大震災後、不安であったこと	26
(2) 市に期待すること	27
(3) 東日本大震災後、対応・支援の状況	28
(4) 大震災による日常生活での影響	28
(5) 海老名市が行った活動の認知度	31
(6) 地域の防災訓練への参加	32
(7) 大震災前後の防災対策	33
4. 広報・情報化	
(1) 市から発信される情報の情報源	38
(2) 市の広報媒体の満足度	38
(3) 市の広報媒体で掲載してほしい内容	39
(4) インターネットの利用状況	40
(5) インターネットの利用端末の種類	41
(6) 携帯電話から、市の講座等の参加申し込み・安全安心メールの認知度	42
(7) 携帯電話サービスの利用状況	42
5. 都市ブランド	
(1) 海老名市の魅力	43
6. 健康	
(1) 健康の維持について	44
7. 少子化対策	
(1) 取り組んで欲しい少子化対策	45
8. 環境・資源対策	
(1) ごみ減量化の推進について	46
(2) ごみの減量化について	47
(3) 節電、省エネについて	48
(4) 節電、省エネ等の環境意識について	49

I . 調査の概要

1. 調査の目的

この調査は、市政に対する市民意識の傾向を把握し、多様化している市民の意見・要望などを調査分析することにより、今後の政策形成の基礎資料とするために、2年に1回実施しております。併せて、市政への直接的な市民参加を促進するものです。

2. 調査の内容

- (1) 定住性・生活環境
- (2) 防火・防災
- (3) 広報・情報化
- (4) 都市ブランド
- (5) 健康
- (6) 少子化対策
- (7) 環境・資源対策

3. 調査の設計

- (1) 調査地域 : 海老名市全域
- (2) 調査対象 : 海老名市在住の満18歳以上の男女
- (3) 標本数 : 2,000人
- (4) 抽出方法 : 等間隔単純無作為抽出法(市の電算機より抽出)
- (5) 母集団 : 海老名市住民基本台帳及び外国人登録原票
- (6) 調査方法 : 郵送
- (7) 調査期間 : 平成23年5月13日～5月27日

4. 地域区分

調査結果の集計にあたっては、下記図及び表1のとおり10地域に区分した。

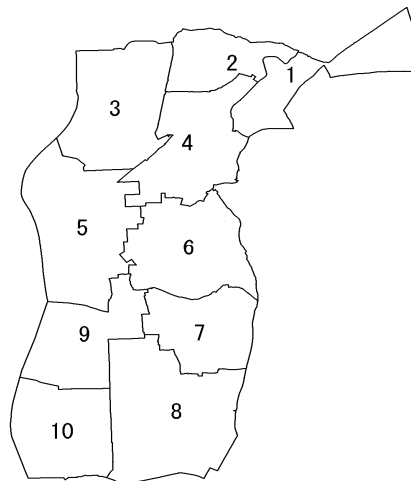


表 1 地域区分一覧表

1	柏ヶ谷地域	柏ヶ谷、東柏ヶ谷 1～6 丁目
2	上今泉地域	上今泉、上今泉 1～6 丁目
3	上郷・下今泉地域	上郷、上郷 1～4 丁目、下今泉、下今泉 1～5 丁目
4	国分地域	中央 1～3 丁目、国分南 1～4 丁目 国分北 1～4 丁目、望地 1～2 丁目、勝瀬
5	海西地域	河原口、さつき町、中新田、中新田 1～5 丁目
6	大谷地域	大谷、大谷北 1～4 丁目、大谷南 1～5 丁目、国分寺台 1～5 丁目、浜田町
7	杉久保地域	杉久保北 1～5 丁目、杉久保南 1～5 丁目
8	本郷地域	上河内、中河内、本郷
9	社家地域	社家、今里
10	門沢橋地域	中野、門沢橋 1～6 丁目

5. 回収結果

地域等	調査対象人口 (構成比)	対象者数	回答数	回収率
総数	127,493 人 (100.0%)	2,000 人	1,339 人	67.0%
柏ヶ谷地域	21,574 人 (16.9%)	349 人	217 人	62.2%
上今泉地域	13,155 人 (10.3%)	208 人	137 人	65.9%
上郷・下今泉地域	6,641 人 (5.2%)	108 人	75 人	69.4%
国分地域	24,827 人 (19.5%)	387 人	269 人	69.5%
海西地域	18,366 人 (14.4%)	270 人	181 人	67.0%
大谷地域	16,051 人 (12.6%)	265 人	184 人	69.4%
杉久保地域	9,592 人 (7.5%)	146 人	95 人	65.1%
本郷地域	3,289 人 (2.6%)	51 人	32 人	62.7%
社家地域	6,023 人 (4.7%)	93 人	56 人	60.2%
門沢橋地域	7,975 人 (6.3%)	123 人	84 人	68.3%

*調査対象人口は平成 23 年 4 月 1 日現在

*居住地域の設問に対して、無回答が 9 票あったため、各地域の回答数の合計は、総数に一致していない。

6. この報告書の見方

- (1) 図表中の N は回答者数です。
- (2) 回答比率 (%) は、すべて N を基数とした百分率で表し、小数点第 2 位を四捨五入しています。このため、回収比率の合計が 100%にならない場合があります。
- (3) 1 つの設問に 2 つ以上選択回答できる「複数回答」の場合には、回答比率の合計が 100%を超えます。
- (4) 調査結果の分析の文章には、図表に掲載されている以外の比率も使用されています。比率の詳細は、巻末集計結果表を参照してください。

II. 調査票・単純集計結果

2. 調査票と単純集計結果

平成23年度 海老名市政アンケート調査

明日へ！未来へ！！東日本へ！！！！

海老名の元気をとどけよう！



海老名市イメージキャラクター えび～にゃ

日ごろ、市政運営にご理解とご協力をいただき誠にありがとうございます。

現在、海老名市では将来都市像「快適に暮らす 魅力あふれるまち 海老名」の実現をめざし、住みよいまちづくりを進めております。

さて、今回お願いいたしますこの調査は、市民のみなさんのご意見を伺い、今後の市政運営に役立てていくことを目的に実施するものです。

調査の実施にあたり、18歳以上の市民の皆様の中から、調査対象者として2,000人を無作為に選んだところ、あなた様にご協力をお願いすることになりました。

この調査は無記名の上、調査の結果は統計的に処理し、具体的な内容を記入いただいた場合も個人が特定できないよう処理しますので、率直なご意見をお聞かせください。

お忙しいところ大変恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力をいただきますようお願いいたします。

平成23年 5月

海老名市長

(調査についてのお問い合わせと調査票回収についてお願い)

☆この調査についてのお問い合わせは、下記までお願いいたします。

海老名市 総務部広聴相談課 046-235-4567

☆ご記入いただいた調査票は、同封の返信用封筒をご使用になり、**5月27日(金)**までに、ご投函くださいますようお願いいたします。(切手は不要です。)

(ご記入にあたってのお願い)

- *あて名の方、ご本人がお答えください。
- *お答えは、あてはまる回答の番号を右の□欄にご記入ください。一つの□欄につき一つのお答えをご記入ください。
なお、あてはまる番号に○印をする指示がある場合は、番号に○印をしてください。
- *一部の方にお答えいただく質問もございますが、その場合は<・・・と答えた方に、お伺いします。>といった指示に沿ってお答えください。
- *「その他」の番号をご記入した場合は、() 内に内容を具体的にご記入ください。
- *ご記入は、鉛筆か、黒または青のボールペンでお願いします。

※ 調査票 2,000名送付中、1,339名分回収—回収率67.0%

◎選択肢項目後の数値は回答者 N に対する選択率%で、() 内は回答者数です。回答者 N は、記載が無い限り全体数(1339)です。

[フェイスシート] <あなた自身のことについて、お伺いします。>

【問1】 あなたの性別はどちらですか。

1. 男性 45.8 (613) 2. 女性 53.3 (714) *無回答 0.9 (12)

【問2】 あなたの年齢はおいくつですか。

1. 18～24歳	5.8 (77)	6. 60～64歳	11.4 (153)
2. 25～29歳	6.3 (84)	7. 65～74歳	18.5 (248)
3. 30～39歳	20.5 (275)	8. 75歳以上	3.7 (50)
4. 40～49歳	17.8 (238)	* 無回答	0.6 (8)
5. 50～59歳	15.4 (206)		

【問3】 あなたのお住まいの地域は、どちらですか。

1. 柏ヶ谷地域 (東柏ヶ谷、柏ヶ谷)	16.2 (217)
2. 上今泉地域	10.2 (137)
3. 上郷・下今泉地域	5.6 (75)
4. 国分地域 (中央、国分南、国分北、望地、勝瀬)	20.1 (269)
5. 海西地域 (河原口、さつき町、中新田)	13.5 (181)
6. 大谷地域 (大谷北、大谷南、国分寺台、浜田町)	13.7 (184)
7. 杉久保地域	7.1 (95)
8. 本郷地域 (上河内、中河内、本郷)	2.4 (32)
9. 社家地域 (社家、今里)	4.2 (56)
10. 門沢橋地域 (中野、門沢橋)	6.3 (84)
* 無回答	0.7 (9)

【問4】 あなたの職業は、次のどれですか。

1. 自営業	7.5 (101)
2. 会社員等	45.0 (602)
3. 学生	3.5 (47)
4. 専業主婦・主夫	25.7 (344)
5. 無職	16.9 (226)
* 無回答	1.4 (19)

<問4で1～3までのいずれかを答えた方にお伺いします。> (N=749)

【問4-1】 あなたの通勤・通学先はどちらですか。

1. 海老名市内	26.0 (195)
2. 近隣市町 (厚木、大和、座間、綾瀬、藤沢、寒川)	28.6 (214)
3. 横浜市・川崎市	14.6 (109)
4. その他神奈川県内	9.5 (71)
5. 東京23区	14.4 (108)
6. 東京23区以外の都内市町村	4.4 (33)
7. その他 ()	2.4 (18)
* 無回答	0.1 (1)

【問5】 あなたが暮らしている家族構成は、次のどれにあてはまりますか。

1. 単身世帯	8.5 (114)
2. 夫婦のみ	25.3 (339)
3. 二世帯世帯 (親と子)	53.6 (718)
4. 三世帯世帯 (親と子と孫)	9.1 (122)
5. その他 ()	2.8 (37)
* 無回答	0.7 (9)

【定住性・生活環境】

【問6】 あなたは、海老名市に住んで何年になりますか。

1. 1年未満	2.2 (30)
2. 1年以上5年未満	11.2 (150)
3. 5年以上10年未満	11.9 (160)
4. 10年以上20年未満	21.2 (284)
5. 20年以上	42.0 (562)
6. 生まれてからずっと	10.8 (144)
* 無回答	0.7 (9)

【問7】 あなたは、これからも海老名市に住みたいと思いますか。

1. ずっと住みたい	39.7 (532)
2. できれば住み続けたい	47.8 (640)
3. できれば市外に移りたい	10.3 (138)
4. すぐにでも市外に移りたい	0.8 (10)
* 無回答	1.4 (19)

<問7で「1.ずっと住みたい」「2.できれば住み続けたい」と答えた方にお伺いします。>

【問7-1】 市内に住みたい理由はなぜですか。次の中から**1つ**お答えください。(N=1,172)

1. 自分、または家族の家や土地があるから	45.5 (532)
2. 住み慣れて愛着があるから	25.6 (300)
3. つき合い等の人間関係が良いから	4.2 (49)
4. 仕事や学校の関係があるから	3.6 (42)
5. 通勤・通学に便利だから	4.6 (54)
6. 買い物等生活に便利だから	8.6 (100)
7. 自然環境が良いから	4.0 (47)
8. 公共施設が整っているから	0.6 (7)
9. 保健福祉等の施策が良いから	0.7 (8)
10. 子育てがしやすいから	1.0 (12)
11. その他 ()	1.6 (19)
* 無回答	0.2 (2)

<問7で「3.できれば市外に移りたい」「4. すぐにでも市外に移りたい」と答えた方にお伺いします。> (N=148)

【問7-2】 市外に移りたい理由はなぜですか。次の中から**1つ**お答えください。

1. 自分、または家族の家や土地がないから	9.5 (14)
2. 周囲の環境が良くないから	10.1 (15)
3. つき合い等の人間関係が良くないから	4.7 (7)
4. 仕事や学校の関係があるから	11.5 (17)
5. 通勤・通学に不便だから	18.9 (28)
6. 買い物等生活に不便だから	10.8 (16)
7. 自然環境が悪いから	3.4 (5)
8. 公共施設が整っていないから	1.4 (2)
9. 保健福祉等の施策が良くないから	2.0 (3)
10. 子育てがしにくいから	2.0 (3)
11. その他 ()	24.3 (36)
* 無回答	1.4 (2)

【問8】 あなたのお住まいの周囲の生活環境や施策の状況等で、ア～チの各項目について、あてはまると思う番号に○印をお願いします。

	1 満足	2 やや満足	3 どちらとも 言えない	4 やや不満	5 不満	6 わからない	無 回答
ア. 保健相談センターや病院等の保健医療施設	14.6	35.3	21.4	12.6	6.3	8.1	1.7
イ. デイサービス施設等の高齢者・障がい者福祉の施設	4.6	11.5	24.3	5.8	3.6	48.0	2.2
ウ. 体育館や図書館等の文化・スポーツ施設	12.4	32.7	21.9	12.6	7.5	11.2	1.7
エ. 小中学校のエアコン設備とトイレ改修	9.6	12.1	17.8	2.1	1.8	53.2	3.4
オ. 下水道・排水処理施設の整備	21.8	27.9	20.6	4.2	4.3	18.7	2.5
カ. 生活道路の整備	16.1	31.3	20.5	18.1	10.3	2.3	1.4
キ. 駅周辺市街地整備	14.6	35.9	21.8	14.3	8.9	2.5	2.0
ク. 公園・遊び場の整備	10.2	29.5	25.6	14.9	7.5	10.4	1.9
ケ. 火災や自然災害に対する体制・対策	4.8	17.1	34.2	10.6	4.0	27.4	1.9
コ. 防犯に対する体制・対策	4.4	19.7	34.5	14.2	6.0	19.3	1.9
サ. 歩道・信号の設置等の交通安全対策	8.6	28.7	25.5	20.4	10.7	4.5	1.6
シ. 樹林地や田園等の緑と自然環境	17.5	37.8	23.9	8.3	5.5	5.8	1.2
ス. ごみ処理と資源回収	24.7	42.6	17.6	8.8	2.5	2.2	1.6
セ. 騒音・振動・悪臭等の公害対策	7.9	22.8	26.7	18.3	14.0	8.4	1.9
ソ. 最寄駅へのアクセス	29.4	32.0	16.0	12.2	7.1	0.8	2.5
タ. 子ども（小児）医療費の全額助成	31.5	12.5	15.0	1.9	1.9	34.1	3.1
チ. 買い物等の生活の便利さ	26.9	38.8	13.7	11.8	7.2	0.2	1.4

【防火・防災】

【問9】 3月11日に発生した「東日本大震災」についてお尋ねします。

① あなたは大震災後、どのようなことに不安を感じましたか。次の中から該当するものを**すべて**お答えください。

1. 自宅の耐震について	63.5 (850)
2. 家族の安全・連絡	84.4 (1130)
3. 避難所が不足する	46.2 (618)
4. 飲食料が不足する	77.0 (1031)
5. 放射能汚染（被爆）	54.1 (725)
6. 津波におそわれる	8.8 (118)
7. 停電	86.8 (1162)
8. 公共交通機関の不通	80.1 (1073)
6. その他 ()	6.9 (93)
* 無回答	1.3 (18)

② あなたは市にどのようなことを期待しますか。次の中から該当するものを**すべて**お答えください。

1. 避難所対策の強化	70.6 (946)
2. 食料備蓄の強化	76.2 (1020)
3. 防災対策の全面的見直し	54.2 (726)
4. 被災地支援の強化	43.5 (582)
5. 被災者受け入れの強化	38.4 (514)
6. 医療体制の強化	71.4 (956)
7. 太陽光発電に対する補助の強化	46.8 (626)
8. その他 ()	6.3 (84)
* 無回答	2.6 (35)

【問9-1】 3月11日に発生した「東日本大震災」の後、あなたはどのような対応・支援をしましたか。次の中から該当するものを**すべて**お答えください。

1. 義援金の寄附	83.7 (1121)
2. 支援物資の提供	14.0 (187)
3. 節電の協力	91.2 (1221)
4. 大震災に関するボランティア活動への参加	2.3 (31)
5. 避難者の受け入れ	1.0 (13)
6. その他 ()	3.4 (46)
7. 特に何もしていない	3.1 (41)
* 無回答	1.4 (19)

【問9-2】 今回の大震災により日常生活で様々な影響がありました。あなたは次のようなことについて、どう思われますか。あてはまると思う番号に○印をお願いします。

	1. 行うべき (協力する)	2. やむえない	3. 行うべき ではない(協 力しない)	無回答
ア 食料品や飲料水の買いだめ	5.2	40.8	51.2	2.8
イ 野菜や魚の風評(うわさ)による買い控え	4.8	36.1	55.9	3.2
ウ 計画停電の実施	22.0	64.5	11.7	1.8
エ 節電のための公共施設の閉館	24.2	63.2	10.2	2.4
オ 防災行政無線による広報	81.4	14.9	0.4	3.3
カ 節電の協力	82.2	15.9	0.5	1.4

【問9-3】 今回の大震災で、海老名市が行った活動で知っているものをすべてお答えください。

- | | |
|---------------------------------------|-------------|
| 1. 震災直後、駅滞留者のために避難所を開設し、飲食、毛布を提供したこと | 37.3 (499) |
| 2. 姉妹都市の白石市へ支援物資を送ったこと | 57.5 (770) |
| 3. 消防救急隊を被災地に派遣したこと | 34.8 (466) |
| 4. 姉妹都市の白石市へ応援のため職員を派遣したこと | 30.2 (405) |
| 5. 被災地からの避難者受け入れ(避難所の開設、市営住宅の提供) | 29.6 (397) |
| 6. 計画停電の実施に関する情報を防災行政無線、チラシで市民に広報したこと | 79.5 (1065) |
| 7. JR相模線運休に対する代替バスの運行 | 53.8 (720) |
| 8. 知らなかった | 10.2 (137) |
| * 無回答 | 2.1 (28) |

【問10】 あなたは、お住まいの地域の防災訓練に参加したことがありますか。

- | | |
|----------------------------------|------------|
| 1. 機会あるたびにいつも参加している | 15.6 (209) |
| 2. 参加する意思はあるが、忙しくなかなか参加できない | 19.3 (258) |
| 3. 防災訓練は行われているが参加したことがない | 23.3 (312) |
| 4. 防災訓練がいつ行われているか知らないので参加したことがない | 37.8 (506) |
| 5. 興味もなく必要性を感じない | 1.9 (25) |
| * 無回答 | 2.1 (29) |

【問 11】 あなたの家庭では、防災対策について、大震災以前にどのようなことを実施されて
 いましたか。また、大震災以降にどのようなことを実施（予定も含む）されていますか。
 あてはまると思う番号に○印をお願いします。

	1. 大震災 前	2. 大震災 後	無回答	実施して いない
ア 消火器や水をはったバケツを準備している	27.6	13.9	1.4	57.1
イ いつも風呂の水をためおきしている	38.1	14.8	2.0	45.1
ウ 家具や冷蔵庫などを固定し、転倒防止をして いる	34.9	9.9	1.4	53.8
エ 食器棚や本棚は揺れにより中のものが飛び 出さない工夫をしている	22.9	14.7	1.5	60.9
オ 万が一、倒れてきても安全なようにしている	20.3	9.4	1.5	68.8
カ 重いものは、上に置かないようにしている	43.6	13.7	1.4	41.3
キ 窓ガラス類に飛散防止対策をしている	8.3	7.5	1.5	82.7
ク ブロック塀を点検し、倒壊を防止している	5.2	5.3	1.4	88.1
ケ 耐震診断などを行い、自分の家の危険度を把 握している	10.0	5.5	1.4	83.1
コ 食糧や飲料水を準備している	40.6	27.3	1.4	30.7
サ 携帯ラジオ、懐中電灯、医薬品を準備してい る	55.6	29.1	1.6	13.7
シ 非常用持ち出し品を準備している	31.0	23.6	1.5	43.9
ス 貴重品などをすぐに持ちだせるよう準備し ている	21.4	23.0	1.5	54.1
セ 常備薬、メガネ、補聴器など無ければ困るも のを準備している	15.5	15.5	1.5	67.5
ソ 非常用トイレを準備している	7.9	8.0	1.4	82.7
タ 家族との連絡方法など決めている	24.4	23.3	1.7	50.6
チ 防災のしおりなどで地震防災情報を確認し ている	16.5	16.9	1.5	65.1
ツ 近くの公園や学校など避難する場所を決め ている	34.9	18.9	1.6	44.6
テ 救出、救助などの機材を準備している	2.9	5.2	1.9	90.0
ト その他（ ）	0.8	1.0	1.5	96.7

【広報・情報化】

【問 12】 あなたは、海老名の行事や出来事などについて、どのように知りますか。次の中から該当するものを**すべて**お答えください。

- | | |
|-------------|-------------|
| 1. 新聞やテレビ | 21.2 (284) |
| 2. 広報えびな | 93.0 (1245) |
| 3. 市のホームページ | 21.1 (283) |
| 4. 自治会回覧 | 60.5 (810) |
| 5. タウン情報誌 | 36.0 (482) |
| 6. その他 () | 5.0 (67) |
| * 無回答 | 1.6 (21) |

【問 12-1】 現在の「広報えびな」「市のホームページ」の内容について、どう思われますか。あてはまると思う**番号に○印**をお願いします。

	1. わかりやすい	2. ふつう	3. わかりにくい	4. 見ていない	無回答
ア 広報えびな	26.9	63.8	3.3	4.3	1.7
イ 市ホームページ	4.8	28.4	9.7	40.1	17.0

【問 12-2】 「広報えびな」「市のホームページ」にどのような記事（内容）を掲載してほしいと思いますか。次の中から**すべて**お答えください。

- | | |
|-------------------|------------|
| 1. 市長の市政運営における考え方 | 34.1 (457) |
| 2. 制度の変更や手続きの案内 | 69.8 (935) |
| 3. 市の予算やその使われ方 | 44.4 (594) |
| 4. 市の政策や計画 | 53.4 (715) |
| 5. 主主催の講座・イベント | 62.5 (837) |
| 6. 地域の話題 | 49.7 (666) |
| 7. 各種申請方法等 | 54.4 (729) |
| 8. その他 () | 3.3 (44) |
| * 無回答 | 8.4 (112) |

【問 13】 あなたは、インターネットを利用していますか。

- | | |
|------------|------------|
| 1. はい | 67.3 (901) |
| 2. 今後利用したい | 5.0 (67) |
| 3. いいえ | 24.3 (325) |
| * 無回答 | 3.4 (46) |

<問 13 で「1. はい」と答えた方にお伺いします。>

【問 13-1】 インターネットを利用するときは、どのような機器を利用していますか。次の中から主に利用するものを**1つ**お答えください。(N=901)

1. 自宅のパソコン	82.2 (741)
2. 勤め先のパソコン	6.5 (59)
3. 携帯電話	10.5 (95)
4. コミュニティセンター等に設置している公共情報端末	0.2 (2)
5. その他 ()	0.2 (2)
* 無回答	0.2 (2)

【問 14】 携帯電話から、市による講座・イベント等の参加申込みや、市からの安全安心メールの受信が出来ることを知っていますか。

1. 知っている	40.4 (541)
2. 知らない	54.1 (724)
* 無回答	5.5 (74)

<問 14 で「1. 知っている」と答えた方にお伺いします。>

【問 14-1】 市で提供している、携帯電話サービスを利用したことがありますか。次の中からお答えください。(複数選択可) (N=541)

1. 講座・イベント等の参加申し込み	4.3 (23)
2. 安全安心メール	63.0 (341)
3. 利用したことがない	35.9 (194)
* 無回答	0.6 (3)

[都市ブランド]

【問 15】 あなたは、海老名市のどのようなところに強い魅力を感じますか。次の中から該当するものを**すべて**お答えください。

1. 交通・生活の利便性	65.3 (874)
2. 田んぼなどの自然	51.1 (684)
3. ビナウォークをはじめとした商業施設	60.2 (806)
4. いちご・いちごワイン	12.9 (173)
5. 東名高速道路「海老名サービスエリア」	44.4 (594)
6. 相模川・川	35.0 (469)
7. シネマコンプレックス (映画館)	33.5 (449)
8. 田舎と都会がほどよくバランスとれた街	53.0 (710)
9. 歴史・相模国分寺史跡	16.7 (223)
10. えびなの森づくり「125,000本の植樹」	14.0 (188)
* 無回答	5.5 (73)

【健康】

【問 16】 あなたは、自分の健康を維持するために行っていることがありますか。次の中から該当するものを**すべて**お答えください。

1. 市の検（健）診（がん検診・健康診査）を受診している	24.6 (330)
2. 会社などの検診を受診している	45.9 (614)
3. 運動（スポーツ）を行っている 運動（スポーツ）の種類（ ）	29.5 (395)
4. 規則正しい生活を心がけている	48.8 (654)
5. 食生活に注意している	56.8 (760)
6. ストレス解消に努めている	34.1 (456)
7. その他（ ）	3.5 (47)
8. 特に何もしていない	8.7 (117)
* 無回答	1.1 (15)

【少子化対策】

【問 17】 あなたが海老名市の少子化対策として取り組んで欲しいものについて、次の中から該当するものを**すべて**お答えください。

1. 子育てサービスの充実	55.5 (743)
2. 出産、子育てに関する情報の提供	34.7 (465)
3. 子ども医療の充実	53.5 (717)
4. 子育ての経済的支援	47.9 (642)
5. 育児不安に対する相談機能の充実	35.8 (480)
6. 保育所の整備	57.9 (775)
* 無回答	13.4 (179)

【環境・資源対策】

【問 18】 あなたの家庭では、ごみの減量やリサイクルの取組みについて、どのようなことを行っていますか。次の中から該当するものを**すべて**お答えください。

1. ごみの分別をしている	97.4 (1304)
2. 生ごみの水切りをしている	71.5 (958)
3. ティッシュを使わず、ふきん等を使用している	25.8 (346)
4. 生ゴミ処理機で、生ごみの減量化・堆肥化を行っている	8.0 (107)
5. 食品を多く買いすぎたり、料理を作りすぎたりしない	45.1 (604)
6. 不要なものは買わない	59.7 (799)
7. 詰め替え製品を選んでいる	75.9 (1016)
8. 割箸、スプーンをもらわない	41.1 (550)
9. マイバック等を持参し、レジ袋はもらわない	48.5 (649)
10. 過剰包装は断る	47.9 (641)
11. その他（ ）	1.3 (17)
12. 特に何もしていない	0.7 (9)
* 無回答	0.9 (12)

【問 18-1】 今後、減量化を進めるにあたり、どのような取組みが重要だと思われますか。次の中から該当するものを**3つ**お答えください。

1. ごみの分別ルール・マナーの啓発	79.1 (1059)
2. ごみの発生抑制・再使用・再生利用の推進	63.6 (852)
3. 生ごみ処理機の設置促進	29.8 (399)
4. 大型生ごみ処理機の設置促進	23.5 (315)
5. ごみの戸別収集の本格実施	16.4 (220)
6. 剪定枝の資源化	22.6 (302)
7. ごみ収集の有料化	10.2 (136)
8. その他 ()	2.9 (39)
* 無回答	1.6 (21)

【問 19】 節電、省エネについて、日頃心掛けていることはありますか。次の中から該当するものを**すべて**お答えください。

1. 不要な照明は消す	97.9 (1311)
2. 不使用時、電化製品のコンセントを抜いておく	63.7 (853)
3. エアコンをなるべく使わない	74.2 (993)
4. 冷暖房を使用するときは、適正な温度設定にしている	63.3 (848)
5. 省エネタイプの家電や給湯施設等を設置している	28.5 (381)
6. 太陽光発電施設・太陽熱利用施設を設置（検討）している	7.5 (101)
7. その他 ()	1.8 (24)
8. 特に何もしていない	0.9 (12)
* 無回答	0.2 (3)

【問 19-1】 節電、省エネ等の環境意識をさらに高めるために、市に特に期待することはありますか。次の中から**1つ**お答えください。

1. 広報やチラシによる啓発活動	39.0 (522)
2. 講演会、座学を中心としたイベントの開催	1.8 (24)
3. 施設見学等、体験を伴うイベントの開催	11.1 (148)
4. 太陽光発電施設等、環境配慮施設への補助金交付	41.3 (553)
5. その他 ()	2.2 (30)
* 無回答	4.6 (62)

Ⅲ. 調査結果の分析

1. 調査回答者の特性（地域別）

調査回答者の特性を地域毎に分析し、その結果を地域間で比較した。表中の「市全体の回答数」の列と「全体」の行で「市全体の回答率」以外の単位は人数表示、その他は％表示となっている。

◎ 性別での割合は、全体で男性45.8％、女性53.3％

◎ 年代別では、30歳代20.5％で最も高く、次に65～74歳18.5％、40歳代17.8％となっている。

地域別では、18～24歳は門沢橋地域、25～29歳は上郷・下今泉地域、30歳代は社家地域、40歳代は海西地域、50歳代は杉久保地域、60～64歳は本郷地域、65～74歳は大谷地域、75歳以上は杉久保地域がそれぞれ最も高い。

◎ 居住年数別では、20年以上42.0％が最も高く、10年以上20年未満21.2％、5年以上10年未満11.9％と続いている。

地域別では、1年未満が上郷・下今泉地域、1年以上5年未満が門沢橋地域、5年以上10年未満では国分地域、10年以上20年未満では柏ヶ谷地域、20年以上では大谷地域、生まれてからずっとでは社家地域が最も高くなっている。

◎ 職業別では、回答者全体の割合で見ると、会社員等45.0％が最も高く、専業主婦・主夫25.7％、無職16.9％、自営業7.5％と続く。

会社員等は、社家地域60.7％、専業主婦・主夫は上今泉地域31.4％、無職は大谷地域26.1％、自営業は上郷・下今泉地域13.3％とそれぞれ最も高くなっている。

◎ 通勤・通学場所では、回答者全体の割合では海老名市内と近隣市町を合わせると54.6％を占める。また、神奈川県内は78.7％、東京都内は18.8％で、8割近くが神奈川県内に通勤・通学している。

海老名市内と近隣市町への通勤・通学率は、本郷地域78.9％が最も高く、杉久保地域67.2％、上郷・下今泉地域63.2％と続いている。

◎ 家族の形態別では、回答者全体の割合で見ると、単身8.5％、夫婦のみ25.3％、二世帯53.6％、三世帯9.1％、その他2.8％となっている。

単身は、杉久保地域12.6％、夫婦のみは上今泉地域29.2％、二世帯は海西地域64.6％、三世帯は社家地域21.4％で、それぞれ最も高い。

調査回答者の特性（地域別）－性別、年代、性別・年代別

		市全体の回答数	市全体の回答率	柏ヶ谷地域	上今泉地域	上郷・下今泉地域	国分地域	海西地域	大谷地域	杉久保地域	本郷地域	社家地域	門沢橋地域	無回答
全体		1339	100.0	217	137	75	269	181	184	95	32	56	84	9
性別	男性	613	45.8	44.2	45.3	49.3	44.2	43.6	48.4	47.4	46.9	55.4	47.6	0.0
	女性	714	53.3	55.8	54.7	50.7	55.4	55.8	50.5	51.6	53.1	44.6	52.4	0.0
	無回答	12	0.9	0.0	0.0	0.0	0.4	0.6	1.1	1.0	0.0	0.0	0.0	100.0
年代	18～24歳	77	5.8	6.5	2.9	6.7	4.8	3.9	4.9	8.4	9.4	7.1	10.7	0.0
	25～29歳	84	6.3	7.4	5.8	8.0	5.9	7.2	5.4	5.3	0.0	7.1	7.1	0.0
	30～39歳	275	20.5	18.0	23.4	25.3	23.0	18.8	15.8	21.1	15.6	26.8	22.6	0.0
	40～49歳	238	17.8	20.7	12.4	17.3	17.5	26.5	14.7	13.7	18.8	16.1	15.5	0.0
	50～59歳	206	15.4	16.1	19.7	10.7	14.1	18.8	10.9	24.2	12.5	17.9	8.3	0.0
	60～64歳	153	11.4	8.8	13.1	12.0	14.1	6.6	14.1	10.5	18.8	8.9	11.9	0.0
	65～74歳	248	18.5	18.9	19.0	16.0	16.0	13.8	29.3	11.6	25.0	16.1	22.6	0.0
	75歳以上	50	3.7	3.7	3.6	4.0	4.1	4.4	4.9	5.3	0.0	0.0	1.2	0.0
	無回答	8	0.6	0.0	0.0	0.0	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
男性	18～24歳	37	2.8	4.1	2.2	1.3	1.1	2.2	2.2	5.3	9.4	3.6	3.6	0.0
	25～29歳	28	2.1	1.8	2.2	5.3	2.6	0.6	1.6	2.1	0.0	3.6	2.4	0.0
	30～39歳	123	9.2	7.8	8.8	13.3	10.8	8.8	7.1	11.6	9.4	8.9	8.3	0.0
	40～49歳	101	7.5	6.5	4.4	9.3	7.8	13.8	4.9	1.1	3.1	10.7	13.1	0.0
	50～59歳	95	7.1	7.4	6.6	0.0	6.3	9.4	6.5	12.6	6.3	14.3	2.4	0.0
	60～64歳	77	5.8	4.1	8.0	8.0	7.1	2.2	7.6	6.3	6.3	5.4	3.6	0.0
	65～74歳	125	9.3	11.1	10.9	9.3	6.3	4.4	15.2	6.3	12.5	8.9	13.1	0.0
	75歳以上	27	2.0	1.4	2.2	2.7	2.2	2.2	3.3	2.1	0.0	0.0	1.2	0.0
	無回答													
女性	18～24歳	40	3.0	2.3	0.7	5.3	3.7	1.7	2.7	3.2	0.0	3.6	7.1	0.0
	25～29歳	55	4.1	5.5	3.6	2.7	3.3	6.1	3.8	3.2	0.0	3.6	4.8	0.0
	30～39歳	152	11.4	10.1	14.6	12.0	12.3	9.9	8.7	9.5	6.3	17.9	14.3	0.0
	40～49歳	137	10.2	14.3	8.0	8.0	9.7	12.7	9.8	12.6	15.6	5.4	2.4	0.0
	50～59歳	111	8.3	8.8	13.1	10.7	7.8	9.4	4.3	11.6	6.3	3.6	6.0	0.0
	60～64歳	76	5.7	4.6	5.1	4.0	7.1	4.4	6.5	4.2	12.5	3.6	8.3	0.0
	65～74歳	122	9.1	7.8	8.0	6.7	9.7	9.4	13.6	5.3	12.5	7.1	9.5	0.0
	75歳以上	21	1.6	2.3	1.5	1.3	1.9	2.2	1.1	2.1	0.0	0.0	0.0	0.0
	無回答													

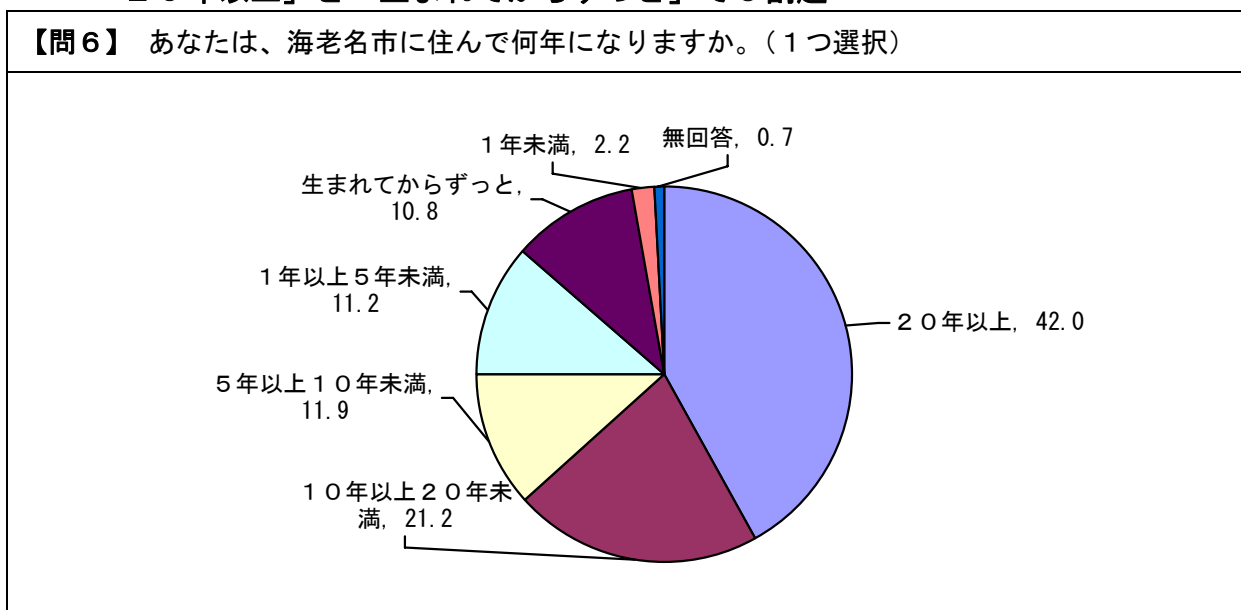
調査回答者の特性（地域別）－居住年数、職業、通勤・通学場所、家族構成

		市全体の回答数	市全体の回答率	柏ヶ谷地域	上今泉地域	上郷・下今泉地域	国分地域	海西地域	大谷地域	杉久保地域	本郷地域	社家地域	門沢橋地域	無回答
合計		1339	100.0	217	137	75	269	181	184	95	32	56	84	9
居住年数	1年未満	30	2.2	2.3	1.5	5.4	3.3	2.2	1.1	1.1	3.1	0.0	2.4	0.0
	1年以上5年未満	150	11.2	9.7	10.2	16.0	13.8	11.1	9.2	7.3	3.1	8.9	16.7	0.0
	5年以上10年未満	160	11.9	12.5	14.6	13.3	16.0	13.2	9.7	5.3	6.3	7.2	8.3	0.0
	10年以上20年未満	284	21.2	27.2	22.6	17.3	23.8	23.7	11.0	21.0	21.9	17.8	16.7	0.0
	20年以上	562	42.0	38.7	43.1	34.7	36.1	37.0	55.4	51.6	43.7	41.1	45.2	0.0
	生まれてからずっと	144	10.8	8.7	8.0	13.3	6.7	11.1	12.5	13.7	21.9	25.0	9.5	0.0
	無回答	9	0.7	0.9	0.0	0.0	0.3	1.7	1.1	0.0	0.0	0.0	1.2	100.0
職業	自営業	101	7.5	5.5	5.8	13.3	7.4	9.4	6.0	8.4	12.5	8.9	7.1	0.0
	会社員等	602	45.0	47.9	41.6	44.0	49.4	43.1	33.2	50.5	40.6	60.7	47.6	0.0
	学生	47	3.5	3.2	2.2	8.0	2.6	3.9	2.7	5.3	6.3	1.8	4.8	0.0
	専業主婦・主夫	344	25.7	24.5	31.4	17.3	27.5	26.5	30.4	18.9	25.0	16.1	26.2	0.0
	無職	226	16.9	18.9	19.0	17.3	12.6	16.0	26.1	13.7	12.5	12.5	13.1	0.0
	無回答	19	1.4	0.0	0.0	0.0	0.4	1.1	1.6	3.2	3.1	0.0	1.2	100.0
通勤・通学場所	海老名市内	195	26.0	19.5	25.0	36.7	27.5	17.7	22.4	36.1	47.3	25.0	32.0	0.0
	近隣市町	214	28.6	30.1	33.8	26.5	17.5	33.3	34.2	31.1	31.6	35.0	26.0	0.0
	横浜市・川崎市	109	14.6	20.3	13.2	14.3	18.1	9.8	17.1	9.8	10.5	5.0	12.0	0.0
	その他神奈川県内	71	9.5	7.3	8.8	6.12	8.2	12.7	5.3	8.2	5.3	20.0	18.0	0.0
	東京23区	108	14.4	19.5	14.7	12.2	18.1	18.6	14.5	4.9	5.3	10.0	2.0	0.0
	都内市町村	33	4.4	2.5	3.0	2.1	7.5	6.9	3.9	3.3	0.0	2.5	4.0	0.0
	その他	18	2.4	0.8	1.5	2.1	2.5	1.0	2.6	6.6	0.0	2.5	6.0	0.0
	無回答	1	0.1	0.0	0.0	0.0	0.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
家族構成	単身世帯	114	8.5	10.6	6.6	8.0	8.2	7.7	5.4	12.6	12.5	7.1	9.5	0.0
	夫婦のみ	339	25.3	23.5	29.2	26.7	27.5	21.0	28.8	18.9	12.5	25.0	31.0	0.0
	二世帯世帯	718	53.6	54.8	53.3	54.7	52.4	64.6	48.9	53.7	56.3	42.9	48.8	0.0
	三世帯世帯	122	9.1	6.5	10.2	10.7	7.4	4.4	12.0	11.6	15.6	21.4	7.1	0.0
	その他	37	2.8	3.7	0.7	0.0	4.1	1.7	3.3	3.2	3.1	3.6	2.4	0.0
	無回答	9	0.7	0.9	0.0	0.0	0.4	0.6	1.6	0.0	0.0	0.0	1.2	100.0

2「定住性・生活環境」

(1) 居住年数

「20年以上」と「生まれてからずっと」で5割超



海老名市での居住年数は、「20年以上」42.0%が最も高く、続いて「10年以上20年未満」21.2%、「5年以上10年未満」11.9%、「1年以上5年未満」11.2%、「生まれてからずっと」10.8%、「1年未満」2.2%となっている。

また、「20年以上」、「生まれてからずっと」を合わせると52.8%となり、前回の52.8%と同じ数値である。平成17、19、21、23年度の調査結果の推移は、52.8%→52.2%→52.8%→52.8%となっている。

「10年未満の居住者」は25～29歳、30歳代で5割超

「20年以上、生まれてからずっと」は60歳以上で7割超

年代別では、「1年未満」、「1年以上5年未満」、「5年以上10年未満」と回答したのは、18～24歳19.5%、25～29歳52.3%、30歳代56.3%、40歳代29.8%、50歳代13.6%であり、60歳代以上では全て10%以下となっている。前回の調査と比較すると、75歳以上は今回4.0%であり、前回の9.6%から減少となった。

また、「20年以上」、「生まれてからずっと」の回答したのは、18歳～24歳39.0%、25～29歳40.6%、30歳代30.6%、40歳代27.3%、50歳代55.3%であり、60歳以上では60歳～64歳74.5%、65歳～74歳87.9%、75歳以上86.0%で、前回の調査と比較すると75歳以上の「20年以上」「生まれてからずっと」の居住者の増加が目立つ結果となった。

「10年未満の居住者」は上郷・下今泉地域、国分地域、門沢橋地域が多い

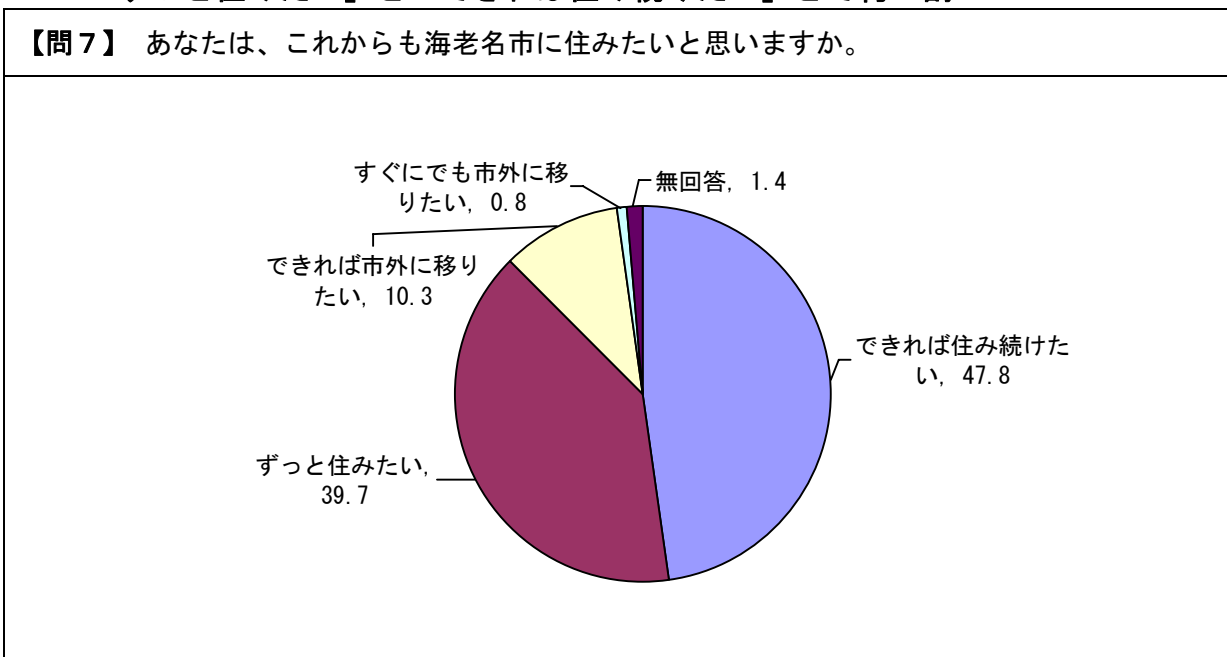
「20年以上、生まれてからずっと」は大谷地域、社家地域、本郷地域が多い

地域別で見ると、10年未満の居住者は上郷・下今泉地域34.7%が最も高く、次に国分地域33.1%、門沢橋地域27.4%と続く。前回の調査と比較すると、門沢橋地域は今回27.4%であり、前回の19.0%から増加となった。

20年以上、生まれてからずっとの居住者は大谷地域67.9%が最も高く、社家地域66.1%、本郷地域65.6%と続く。

(2) 定住意向・転出意向

「ずっと住みたい」と「できれば住み続けたい」とで約9割



海老名市への定住意向は、「ずっと住みたい」、「できれば住み続けたい」を合わせると87.5%となり、8割以上の方がこれからも海老名市に住みたい意向を持っている一方、市外に移りたいという意向を持っているのは11.1%となっている。

平成17、19、21、23年度の調査結果の推移は、定住意向の割合は84.4%→83.9%→87.1%→87.5%と高い水準を維持している。逆に転出意向の割合は14.8%→14.5%→11.6%→11.1%となっており、減少傾向にあるといえる。

20歳代後半からすでに高い定住意向

定住意向について年代別では、どの年代でも高い数値を示しており、25歳以降からすでに80%を超えた高い数値となっている。この中で「ずっと住みたい」は年齢が高くなるに従い比率が高まっていく。逆に「できれば住み続けたい」は、年齢が低くなるに従い割合が高くなる傾向にある。

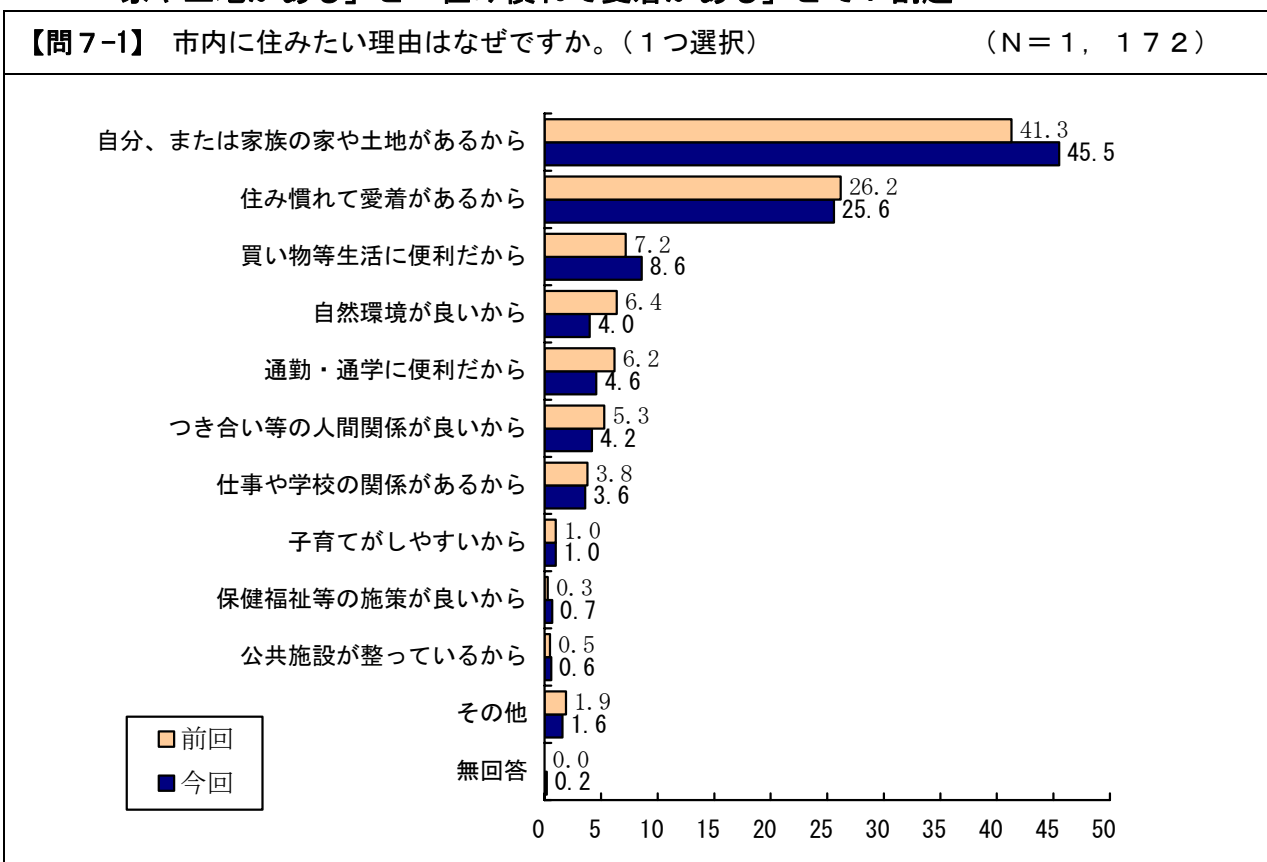
他方、転出意向について見ると、年齢が低くなるほど数値が高くなっており、18歳～24歳では20%を超えている。「できれば市外に移りたい」は18～24歳で20.8%、25～29歳で16.7%、30歳代で13.5%、40歳代で12.2%、50歳代で10.2%、60～64歳で10.5%、65歳以上は5%以下となっている。「すぐにでも市外に移りたい」はどの年齢層とも4%以下である。

地域別で見ると、定住意向で最も高い地域は海西地域の93.9%で、杉久保地域92.6%と続き、他の地域も高い割合となっている。また、転出意向は門沢橋地域17.9%が最も高くなっている。

居住年数別で見ると、定住意向では20年以上91.3%が最も高く、生まれてからずっとが90.9%が続いている。また、転出意向については1年未満、1年以上5年未満が20.0%で最も高い。

(3) 市内に住みたい理由

「家や土地がある」と「住み慣れて愛着がある」とで7割超



市内に住みたい理由は、「自分、または家族の家や土地があるから」45.5%と最も高く、続いて「住み慣れて愛着があるから」25.6%、「買い物等生活に便利だから」8.6%となっており、上位2つは17、19、21年度の調査でも同一で、この2つを合わせると7割を占めている。

性別では、女性は1位から3位までが調査全体の結果と同じであるが、男性では1、2位は同じだが、3位は「通勤・通学に便利だから」となっている。

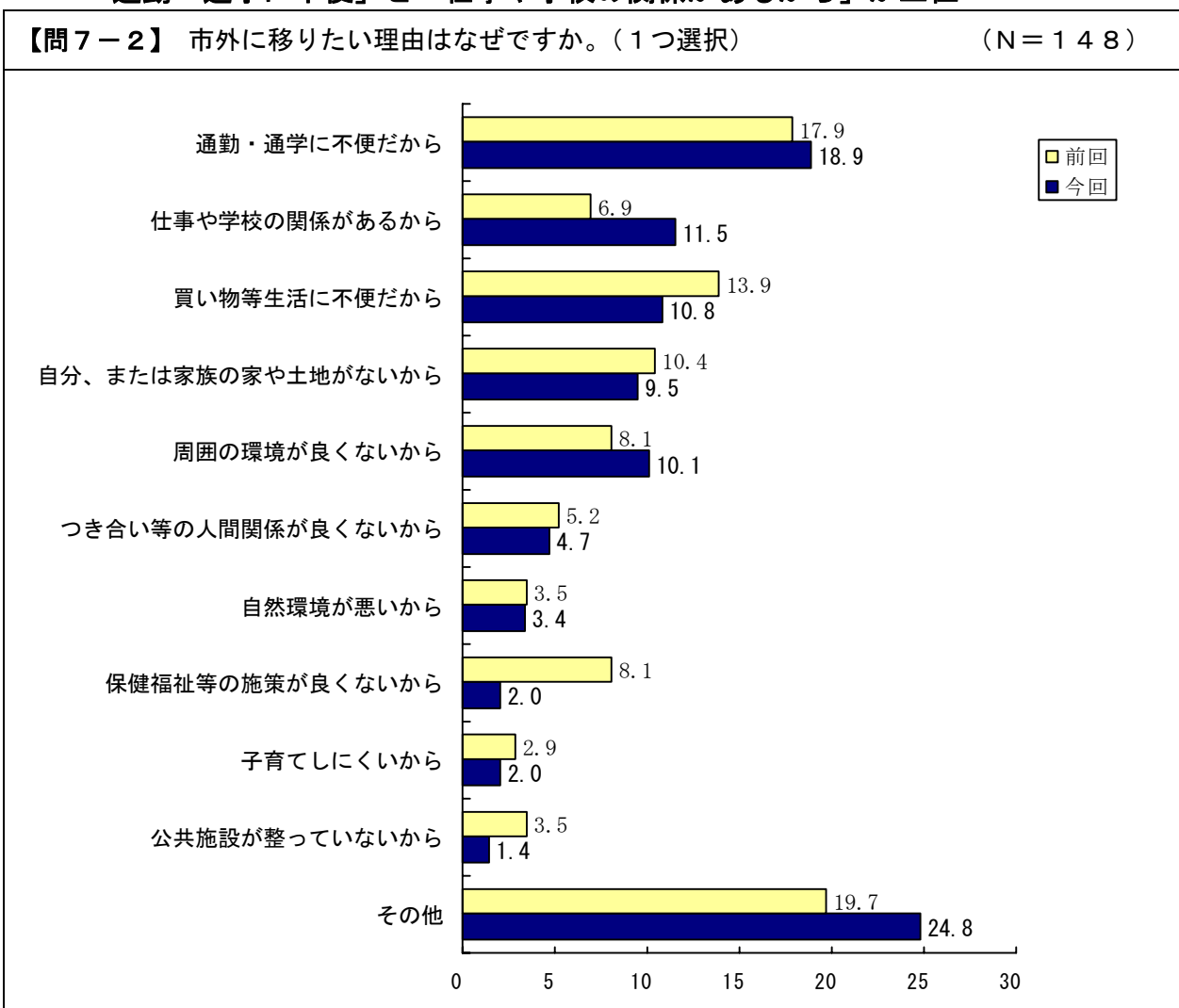
年代別では、「通勤・通学に便利だから」「買い物等生活に便利」は18歳～24歳、25歳～29歳がそれぞれ10%を超え、他の年代に比べ高い結果となっている。

調査全体の結果上位2項目の合計を地域別で比較すると、社家地域86.0%で最も高く、続いて本郷地域85.7%、杉久保地域75.0%となっている。

居住年数別では、「自分、または家族の家や土地があるから」は居住年数が長くなるに従い割合が高くなっている。

(4) 市外に移りたい理由

「通勤・通学に不便」と「仕事や学校の関係があるから」が上位



市外へ移りたい理由としては、「通勤・通学に不便だから」18.9%が最も高く、「仕事や学校の関係があるから」11.5%、「買い物等生活に不便だから」10.8%と続いている。前回の調査と比べると、「仕事や学校の関係があるから」の数値が高くなっている一方、「買い物等生活に不便だから」の数値が低くなっている。また、「保健福祉等の施策が良くないから」は前回の調査は、8.1%であったのに比べ2.0%に減少している。

性別で見ると、男性は「通勤・通学に不便だから」、「仕事や学校の関係があるから」の2つで41.7%を占めており、女性は「通勤・通学に不便だから」が最も高く、続いて「買い物等生活に不便だから」「周囲の環境が良くないから」となっている。

年代別で見ると、「通勤・通学に不便だから」は、18～24歳52.6%、50～59歳23.8%、「仕事や学校の関係があるから」25～29歳40.0%、30～39歳15.4%、がそれぞれの項目で最も高い。

地域別では、「通勤・通学に不便だから」は、本郷地域、杉久保地域が50%を超える高い数値であった。

居住年数別では、調査全体で1位の「通勤・通学に不便だから」は、ほぼ全ての区分で3位以内となっている。

(5) 生活環境と施策の満足度

【問8】 あなたのお住まいの周囲の生活環境や施策の状況等で、ア～チの各項目について、あてはまると思うものをお選びください。(項目ごとに1つ選択)

◎満足度の高い項目(満足とやや満足を合わせた順位)

「ごみ処理と資源回収」、「買い物等の生活の便利さ」など3項目が60%台

満足度の高い項目の1位は前回同様「ごみ処理と資源回収」67.3%、2位「買い物等の生活の便利さ」65.7%、3位「最寄駅へのアクセス」61.4%、4位「樹林地や田園等の緑と自然環境」55.3%、5位「駅周辺市街地整備」50.5%となっている。

1位の「ごみ処理と資源回収」は年代別では、65～74歳で70%台、75歳以上では90%台、特に女性の75歳以上では100%となっている。地域別では、本郷地域、海西地域、国分地域が70%台、その他の地域でも60%台と高い数値となっている。居住年数では1年未満、20年以上が70%台となっている。

2位の「買い物等の生活の便利さ」は性別では男女ともに60%台だが、性別・年代別で見ると、30～39歳を除いた全ての性別・年代別で、女性の方が男性より満足度が高い割合を示している。地域別では柏ヶ谷地域、国分地域、大谷地域、海西地域で70%台だが、社家地域、本郷地域、門沢橋地域、上郷・下今泉地域は40%台となっている。

3位の「最寄駅へのアクセス」を性別・年代別で見ると、どの性別・年代でも50～60%台の数値となっている。地域別では柏ヶ谷地域が80%台、海西地域が70%台の他、大谷地域、国分地域、門沢橋地域が60%台と高い割合を示している。

◎不満足度の高い項目(不満とやや不満を合わせた順位)

「騒音・振動・悪臭等の公害対策」「歩道・信号の設置等の交通安全対策」の2項目が30%台

不満足度の高い項目は1位「騒音・振動・悪臭等の公害対策」32.3%、2位「歩道・信号の設置等の交通安全対策」31.1%、3位「生活道路の整備」28.4%、4位「駅周辺市街地整備」23.2%、5位「公園・遊び場の整備」22.4%となっている。この上位4項目までは、前回調査時も上位4位を占めていた。

1位の「騒音・振動・悪臭等の公害対策」では、年代別で最も高いのは75歳以上の36.0%であった。地域別では本郷地域が46.9%で他の地域と比べると高く、続いて柏ヶ谷地域43.3%となっている。居住年数では生まれてからずっとが34.0%で最も高かった。

2位の「歩道・信号の設置等の交通安全対策」は年代別では40～49歳が39.1%で最も高く、特に同年代の女性は43.8%で、性別・年代別の区分の中でも最も高くなっている。地域別では本郷地域が43.8%で他の地域と比べると高く、続いて柏ヶ谷地域35.0%となっている。居住年数では5年以上10年未満が39.4%で最も高かった。

3位の「生活道路の整備」は年代別では40歳代37.0%が最も高く、性別・年代別でも40歳代の男性が43.6%と特に高い。地域別では本郷地区が37.5%と最も高く、上郷・下今泉地域が続いている。居住年数では5年以上10年未満が36.9%で最も高かった。

◎生活環境と施策の平均評価点

「満足」「やや満足」「やや不満」「不満」評価の各回答者数に所定の評価点を乗じた値の和を調査回答者数で除したものを「平均評価点」とする。平均評価点は-2.00から2.00の間に分布する。

この平均評価点の算出方法では「どちらとも言えない」の評価は考慮されず、「満足」と「やや満足」、「やや不満」と「不満」では点数に倍の差がつくため、順位は%評価や%評価を基準としている満足度、不満足度とは異なる結果になる場合もある。

☆算出式

$$\frac{\text{「満足」} \times 2 \text{点} + \text{「やや満足」} \times 1 \text{点} + \text{「やや不満」} \times -1 \text{点} + \text{「不満」} \times -2 \text{点}}{\text{調査回答者数}}$$

	満足	やや満足	どちらとも言えない	やや不満	不満	わからない	無回答	平均評価点	前回との比較
ア. 保健相談センターや病院等の保健医療施設	14.6	35.3	21.4	12.6	6.3	8.1	1.7	0.39	↗
イ. デイサービス施設等の高齢者・障がい者福祉の施設	4.6	11.5	24.3	5.8	3.6	48.0	2.2	0.08	→
ウ. 体育館や図書館等の文化・スポーツ施設	12.4	32.7	21.9	12.6	7.5	11.2	1.7	0.30	↘
エ. 小中学校のエアコン設備とトイレ改修	9.6	12.1	17.8	2.1	1.8	53.2	3.4	0.26	↘
オ. 下水道・排水処理施設の整備	21.8	27.9	20.6	4.2	4.3	18.7	2.5	0.59	↗
カ. 生活道路の整備	16.1	31.3	20.5	18.1	10.3	2.3	1.4	0.25	↗
キ. 駅周辺市街地整備	14.6	35.9	21.8	14.3	8.9	2.5	2.0	0.33	↗
ク. 公園・遊び場の整備	10.2	29.5	25.6	14.9	7.5	10.4	1.9	0.20	↘
ケ. 火災や自然災害に対する体制・対策	4.8	17.1	34.2	10.6	4.0	27.4	1.9	0.08	↘
コ. 防犯に対する体制・対策	4.4	19.7	34.5	14.2	6.0	19.3	1.9	0.02	↘
サ. 歩道・信号の設備等の交通安全対策	8.6	28.7	25.5	20.4	10.7	4.5	1.6	0.04	↗
シ. 樹林地や田園等の緑と自然環境	17.5	37.8	23.9	8.3	5.5	5.8	1.2	0.74	↗
ス. ごみ処理と資源回収	24.7	42.6	17.6	8.8	2.5	2.2	1.6	0.78	↘
セ. 騒音・振動・悪臭等の公害対策	7.9	22.8	26.7	18.3	14.0	8.4	1.9	-0.08	↘
ソ. 最寄駅へのアクセス	29.4	32.0	16.0	12.2	7.1	0.8	2.5	0.64	↗
タ. 子ども（小児）医療費の全額助成	31.5	12.5	15.0	1.9	1.9	34.1	3.1	0.70	—
チ. 買い物等の生活の便利さ	26.9	38.8	13.7	11.8	7.2	0.2	1.4	0.66	↗

※「満足」「やや満足」「どちらともいえない」「やや不満」「不満」「無回答」の数値は%表示。平均評価点は上記算式により算出し、小数点第3位を四捨五入した数値

今回の調査では全体で、17項目中で平均評価点がプラスとなった項目は16項目、マイナスとなった項目は1項目あった。

プラス評価が高い項目では、「ごみ処理と資源回収」0.78が最も高く、続いて「樹林地や田園等の緑と自然環境」0.74、「子ども（小児）医療費の全額助成」0.70、「買い物等の生活の便利さ」0.66、「最寄駅へのアクセス」0.64となっている。

今回の調査でのマイナス評価の項目は、「騒音・振動・悪臭等の公害対策」-0.08だけとなっており、「歩道・信号の設備等の交通安全対策」は、前回-0.02とマイナス評価だったが、今回の調査では0.04となりプラス評価であった。

◎地域別評価

	柏ヶ谷	上今泉	上郷・下今泉	国分	海西	大谷	杉久保	本郷	社家	門沢橋
ア. 保健医療施設	0.29	0.36	0.40	0.45	0.66	0.63	0.32	0.13	0.27	-0.30
イ. 高齢者・障がい者福祉の施設	-0.05	0.8	0.04	0.09	0.12	0.19	0.23	0.00	-0.04	0.00
ウ. 文化・スポーツ施設	-0.15	0.42	0.31	0.23	0.47	0.42	0.26	0.00	0.82	0.61
エ. 小中学校のエアコン設備とトイレ改修	0.31	0.25	0.24	0.20	0.21	0.23	0.28	0.59	0.36	0.26
オ. 下水道・排水処理	0.68	0.65	0.55	0.62	0.50	0.67	0.65	-0.81	0.70	0.58
カ. 生活道路の整備	0.31	0.26	0.00	0.03	0.30	0.44	0.44	-0.16	0.41	0.24
キ. 駅周辺市街地整備	0.30	0.22	0.37	0.42	0.31	0.47	0.33	0.47	0.59	-0.20
ク. 公園・遊び場の整備	0.37	0.25	0.49	0.05	0.30	0.18	0.12	-0.66	0.41	0.04
ケ. 火災や自然災害に対する体制・対策	0.15	0.05	0.12	0.04	0.07	0.14	-0.02	-0.19	0.05	-0.10
コ. 防犯に対する体制・対策	-0.07	0.05	0.12	0.04	0.07	0.14	-0.02	-0.19	0.05	-0.10
サ. 歩道・信号の設備等の交通安全対策	-0.07	0.10	0.01	0.01	0.08	0.11	0.07	-0.38	0.25	0.07
シ. 樹林地や田園等の緑と自然環境	0.34	0.61	0.65	0.52	0.61	0.58	0.64	0.47	0.70	0.44
ス. ごみ処理と資源回収	0.76	0.75	0.73	0.80	0.89	0.68	0.78	1.03	0.70	0.89
セ. 騒音・振動・悪臭等の公害対策	-0.35	-0.15	-0.01	0.10	0.12	-0.17	-0.11	-0.34	-0.02	0.05
ソ. 最寄駅へのアクセス	1.23	0.09	0.36	0.82	0.93	0.67	0.12	-0.72	0.00	0.63
タ. 子ども（小児）医療費の全額助成	0.64	0.67	0.71	0.76	0.77	0.65	0.62	0.97	0.57	0.79
チ. 買い物等の生活の便利さ	1.05	0.25	-0.05	1.04	0.77	0.92	0.39	-0.06	0.14	-0.07

地域別に評価点を見ると、全体でも評価の高かった「ごみ処理と資源回収」、「樹林地や田園等の緑と自然環境」、「子ども（小児）医療費の全額助成」は、全ての地域でプラス評価を得ている。

地域によって最高評価点と最低評価点の差が大きかった項目は、「最寄駅へのアクセス」柏ヶ谷地域の1.23、本郷地域の-0.72で差は1.95だった。続いて「下水道・排水処理」社家地域0.70、本郷地域-0.81で1.51、「公園・遊び場の整備」上郷・下今泉地域0.49、本郷地域-0.66で1.15となっている。

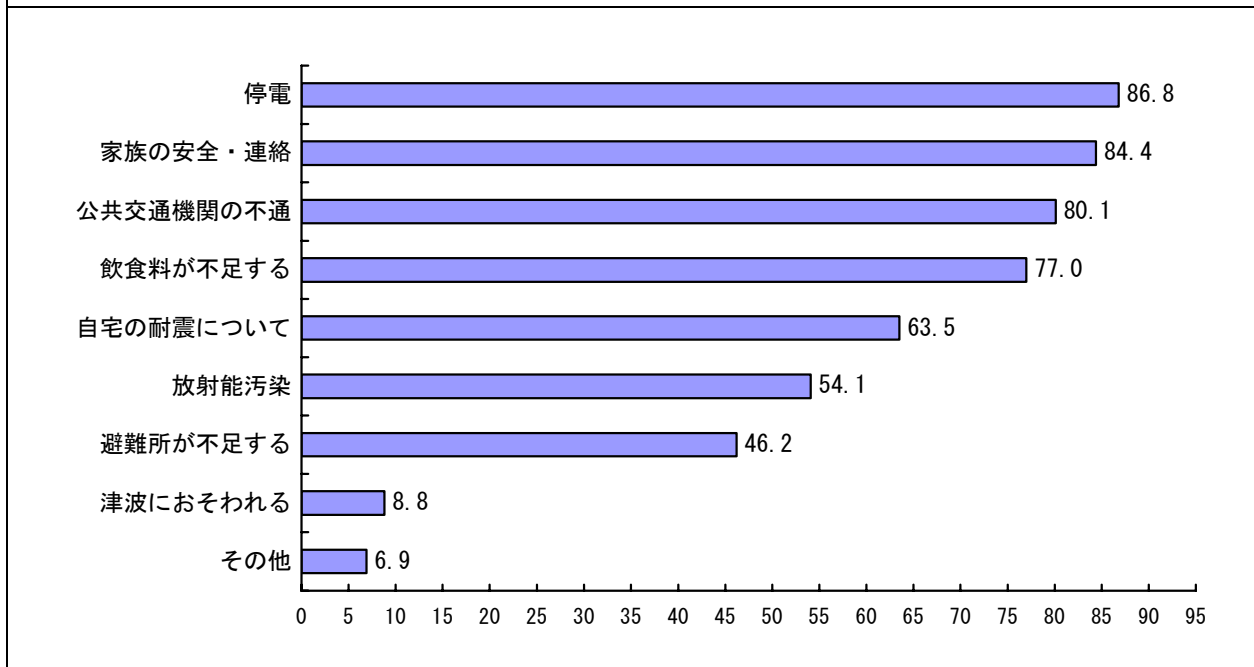
3 「防火・防災」

(1) 東日本大震災後、不安であったこと

「停電」「家族の安全・連絡」「公共交通機関の不通」で8割超

【問9】 3月11日に発生した「東日本大震災」についてお尋ねします。

①あなたは震災後、どのようなことに不安を感じましたか。(すべて選択)



大震災後に不安を感じたことについて、「停電」86.8%で最も高く、次いで「家族の安全・連絡」84.4%、「公共交通機関の不通」80.1%、「飲食料が不足する」77.0%となっている。

性別では、男女共に全体と同じ順位であった。また、全ての項目について女性が男性より高い数値であった。

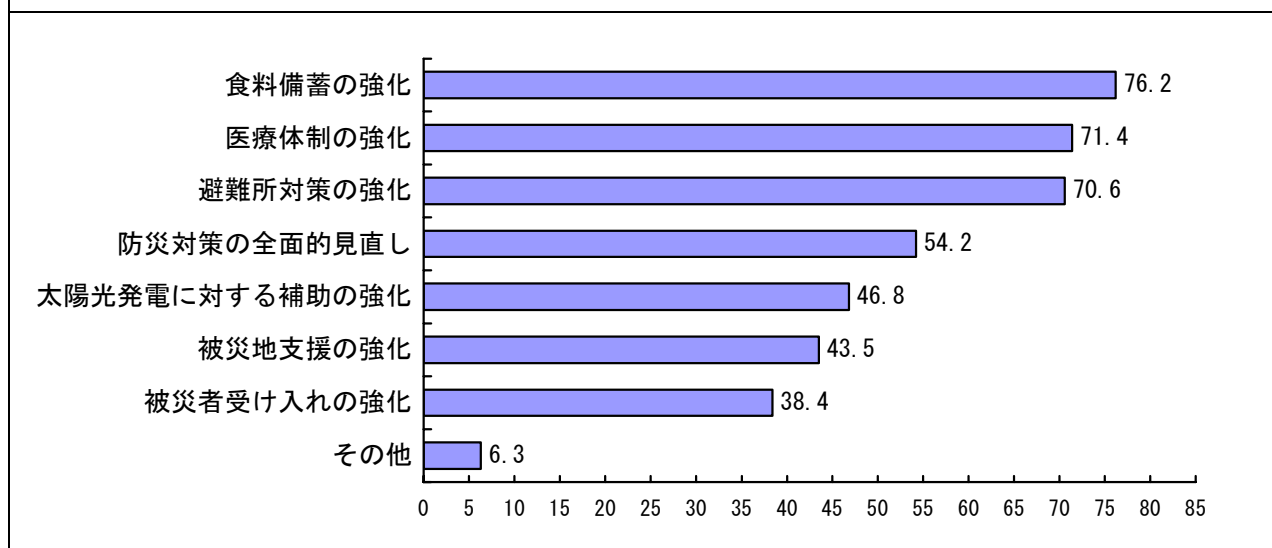
年代別では、「停電」は全ての年代で80%台と高く、18～24歳、50～59歳を除いたすべての年代で最も高い数値である。18～24歳では「飲食料が不足する」89.6%、50～59歳では「家族の安全・連絡」87.9%が最も高い数値であった。

地域別では、「停電」は全ての地域で80%台と高い。「津波におそわれる」は、社家地域23.2%、門沢橋地域21.4%で他の地域に比べると高い数値であった。

(2) 市に期待すること

「食料備蓄の強化」「医療体制の強化」「避難所対策の強化」で7割超

②あなたは市にどのようなことを期待しますか。(すべて選択)

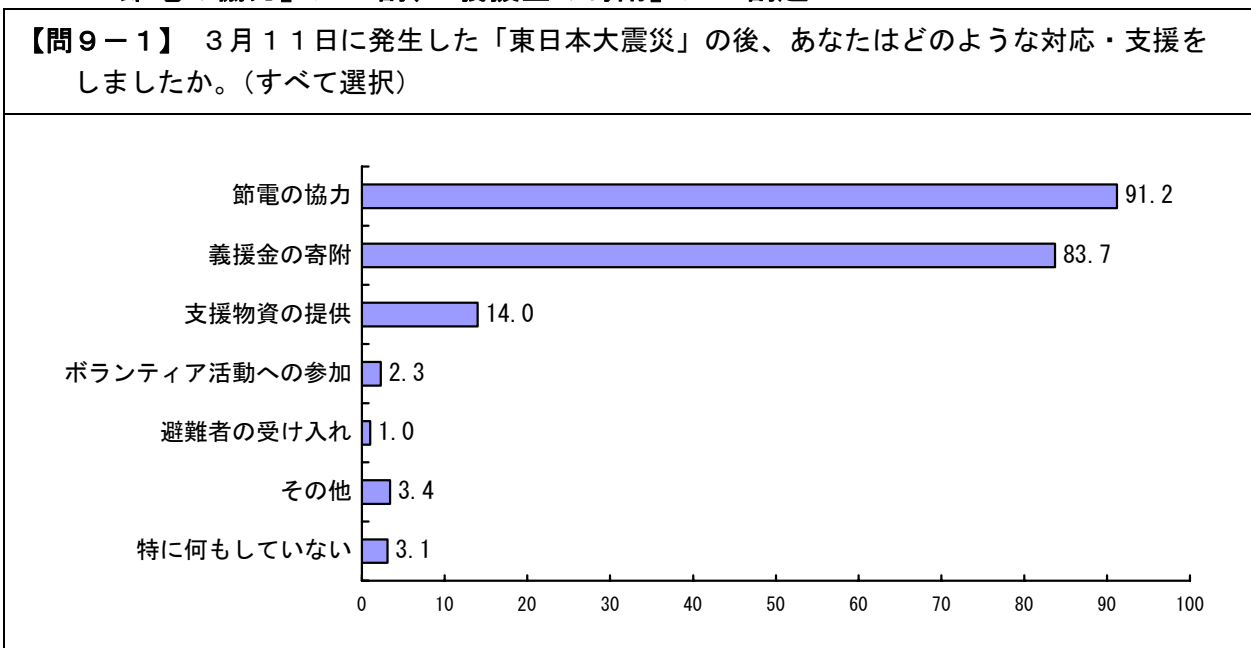


市に期待することについて、「食料備蓄の強化」76.2%で最も高く、次いで「医療体制の強化」71.4%、「避難所対策の強化」70.6%、「防災対策の全面的見直し」54.2%となっている。

年代別では、「避難所対策の強化」「医療体制の強化」については、「避難所対策の強化」18～24歳57.1%に対し、75歳以上では90.0%、「医療体制の強化」18～24歳66.2%に対し、75歳以上では88.0%と年代が高くなるにつれて高い数値になっている。

地域別でみると、「防災対策の全面的見直し」は本郷地域65.6%、「食料備蓄の強化」海西地域は80.1%と最も高い数値であった。

(3) 東日本大震災後、対応・支援の状況
「節電の協力」が9割、「義援金の寄附」が8割超



大震災後、どのような対応・支援をしたかについて、「節電の協力」91.2%で最も高く、次いで「義援金の寄附」83.7%、「支援物資の提供」14.0%となっている。

性別では、「節電の協力」「義援金の寄附」男女共に80%超の高い数値であった。

性別・年代別でみると、「節電の協力」は全体的に80~90%の高い数値であるが、男性・25~29歳は75%にとどまり、性別・年代別の中では最も低い数値であった。

地域別では、「義援金の寄附」は全ての地域で7割超の高い数値である。最も高い地域は上今泉地域92.7%、最も低い地域は門沢橋地域71.4%であった。

(4) 大震災による日常生活での影響
「節電の協力」は「行うべき(協力する)」が8割

【問9-2】 今回の大震災により日常生活で様々な影響がありましたが、あなたは次のようなことについて、どう思われますか。(項目ごとに1つ選択)

	行うべき (協力する)	やむえない	行うべきではない (協力しない)
ア. 食料品や飲料水の買いだめ	5.2	40.8	51.2
イ. 野菜や魚の風評(うわさ)による買い控え	4.8	36.1	55.9
ウ. 計画停電の実施	22.0	64.5	11.7
エ. 節電のための公共施設の閉館	24.2	63.2	10.2
オ. 防災行政無線による広報	81.4	14.9	0.4
カ. 節電の協力	82.2	15.9	0.5

ア 食料品や飲料水の買いだめについて、「行うべき」5.2%、「やむえない」40.8%で肯定的が46.0%に対して、否定的な「行うべきではない」が51.2%であった。年代別は、最も肯定的なのは25～29歳54.8%で、最も否定的なのは18～24歳62.3%。

イ 野菜や魚の風評による買い控えについて、「行うべき」4.8%、「やむえない」36.1%で肯定的が40.9%に対して、否定的な「行うべきではない」が55.9%であった。年代別は、最も肯定的なのは25～29歳51.2%で、最も否定的なのは18～24歳63.6%。

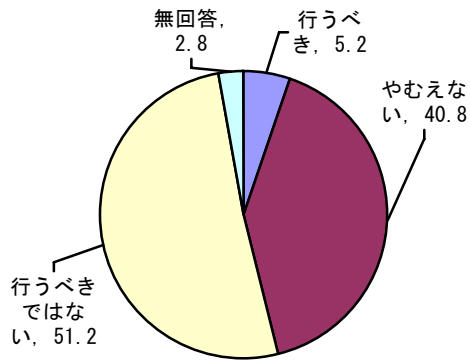
ウ 計画停電の実施について、「行うべき」22.0%、「やむえない」64.5%で肯定的が86.5%に対して、否定的な「行うべきではない」が11.7%であった。年代別は、最も肯定的なのは18～24歳93.5%で、最も否定的なのは60～64歳16.3%。

エ 節電のための公共施設の閉館について、「行うべき」24.2%、「やむえない」63.2%で肯定的が87.4%に対して、否定的な「行うべきではない」が10.2%であった。年代別は、最も肯定的なのは40～49歳90.8%で、最も否定的なのは18～24歳16.9%。

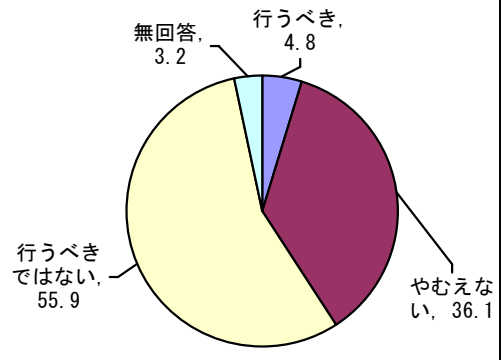
オ 防災行政無線による広報について、「行うべき」81.4%、「やむえない」14.9%で肯定的が96.3%に対して、否定的な「行うべきではない」が0.4%であった。年代別は、最も肯定的なのは30～39歳98.9%で、最も否定的なのは18～24歳2.6%。

カ 節電の協力について、「行うべき」82.2%、「やむえない」15.9%で肯定的が98.1%に対して、否定的な「行うべきではない」0.5%であった。年代別は、最も肯定的なのは40～49歳99.6%で、最も否定的なのは18～24歳1.3%。

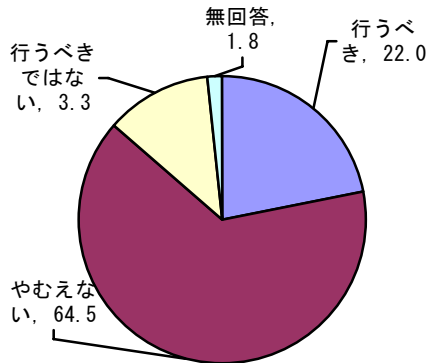
ア. 食料品や飲料水の買いだめ



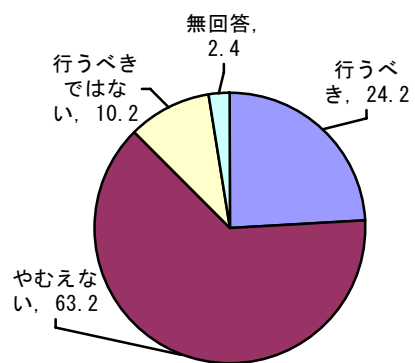
イ. 野菜や魚の風評（うわさ）による買い控え



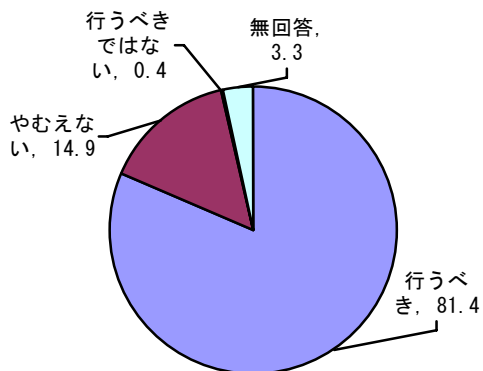
ウ. 計画停電の実施



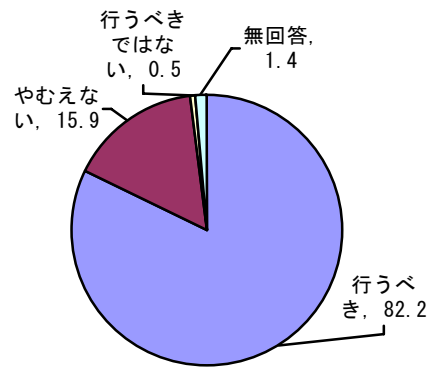
エ. 節電のための公共施設の閉館



オ. 防災行政無線による広報

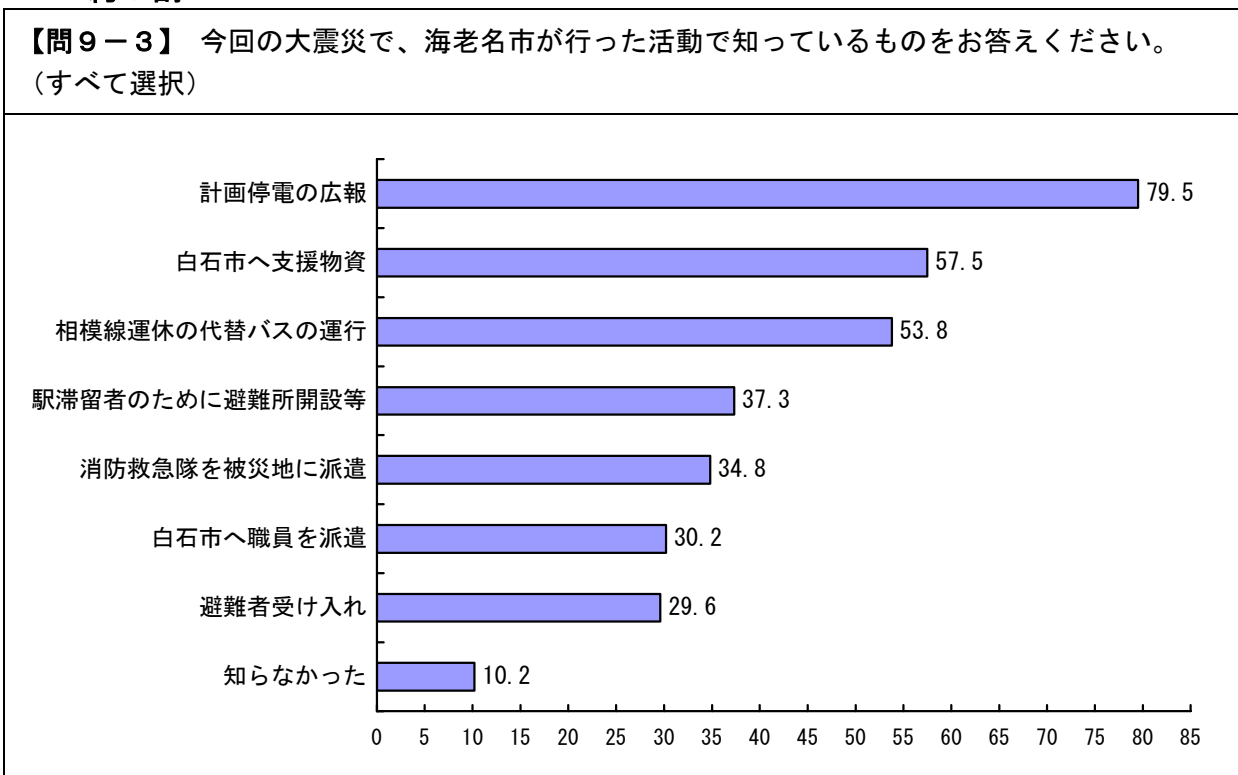


カ. 節電の協力



(5) 海老名市が行った活動の認知度

「計画停電の実施に関する情報を防災行政無線、チラシで市民に広報した」が約8割



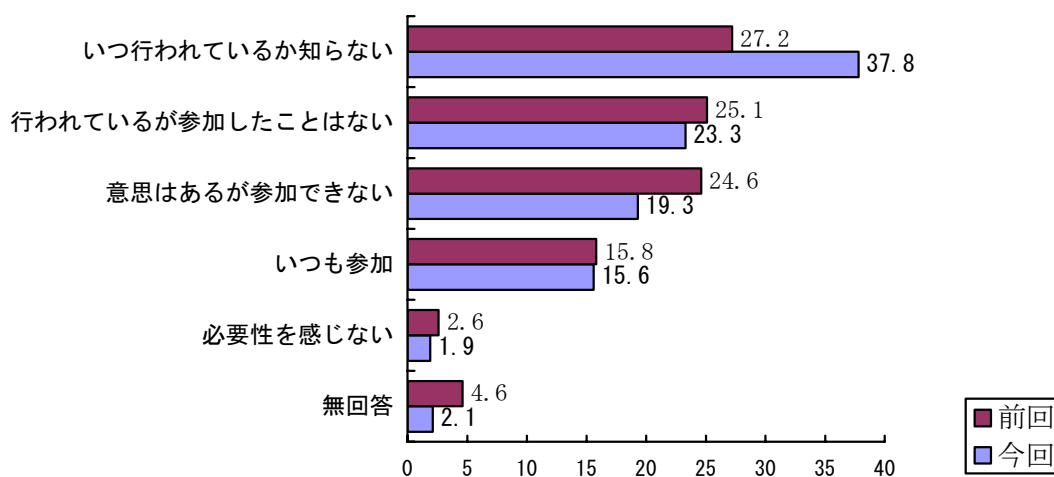
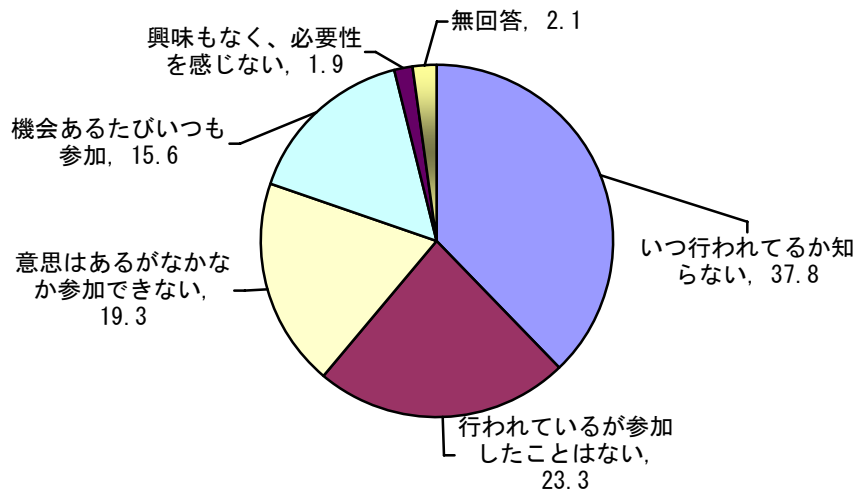
今回の大震災で、海老名市が行った活動で知っていることは、「計画停電の実施に関する情報を防災行政無線、チラシで市民に広報したこと」79.5%で最も高く、次いで「姉妹都市の白石市へ支援物資を送ったこと」57.5%、「JR 相模線運休に対する代替バスの運行」53.8%、「震災直後、駅滞留者のために避難所を開設し、飲食、毛布を提供したこと」37.3%となっている。

年代別では、「計画停電の実施に関する情報を防災行政無線、チラシで市民に広報したこと」は、18～24歳63.6%を除いた、すべての年代で70%以上の高い数値となっている。

地域別では、「JR 相模線運休に対する代替バスの運行」門沢橋地域86.9%、社家地域85.7%、本郷地域81.3%と高い数値である。「計画停電の実施に関する情報を防災行政無線、チラシで市民に広報したこと」は全ての地域で70%以上となっている。

(6) 地域の防災訓練への参加
地域の防災訓練への参加は2割未満

【問10】 あなたは、お住いの地域の防災訓練に参加したことがありますか。(1つ選択)



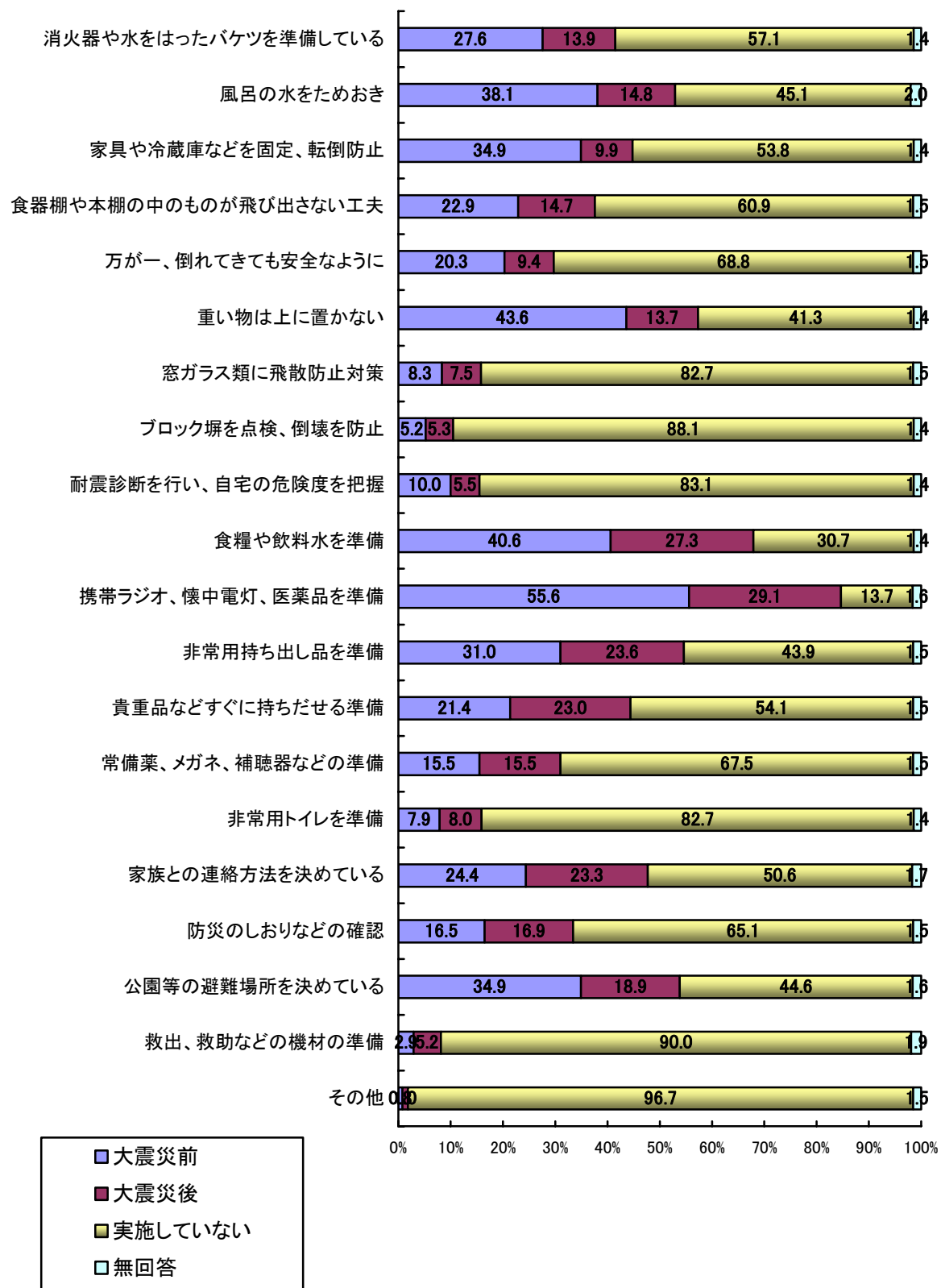
地域の防災訓練への参加について、「機会あるたびいつも参加」15.6%、「意思はあるがなかなか参加できない」19.3%で、3割は自主防災訓練への参加意思があると答えている。

性別・年齢別では「いつも参加」が男女ともに65歳以上は30~40%超と割合が高かった。また、「いつ行われているのか知らないので参加したことがない」は18~24歳、25~29歳で60~70%と男女共に他に比べて高い数値であった。

地域別では社家地域、本郷地域で「いつも参加」が10%以下と低く、前回の調査でも低い数値であった。また、「いつ行われているのか知らない」本郷地域62.5%、社家地域60.7%と高い。

(7) 大震災前後の防災対策
 防災対策の平均実施率は4割

【問11】 あなたの家庭では、防災対策について、大震災以前にどのようなことを実施されていましたか。また、大震災以降にどのようなことを実施（予定も含む）されていますか。（1つ選択）



「大震災前」から実施している防災対策で最も実施率が高かったのは、「携帯ラジオ、懐中電灯、医薬品を準備している」55.6%、続いて「重いものは、上に置かないようにしている」43.6%、「食糧や飲料水を準備している」40.6%となっている。

「大震災後」から実施している防災対策で最も実施率が高かったのは、「携帯ラジオ、懐中電灯、医薬品を準備している」29.1%、続いて「食糧や飲料水を準備している」27.3%、「非常用持ち出し品を準備している」23.6%となっている。

「大震災前」「大震災後」を合わせて最も実施率が高かった防災対策は、「携帯ラジオ、懐中電灯、医薬品を準備している」84.7%、続いて「食糧や飲料水を準備している」67.9%、「重いものは、上に置かないようにしている」57.3%となっている。

防災対策19項目の平均実施率は、「大震災前から」が24.3%、「大震災後から」が15.0%で、合わせると39.3%となっている。

ア 消火器や水をはったバケツを準備しているかについて、「大震災前」27.6%、「大震災後」13.9%、「実施していない」57.1%。年代別は、「大震災前」75歳以上48.0%が最も高く、18~24歳14.3%が最も低い。「大震災後」25~29歳20.2%が最も高く、最も低いのは30~39歳11.3%が最も低い。地域別では、「大震災前」「大震災後」合わせた数値で実施率が高いのは、杉久保地域52.6%で、最も低いのは、社家地域32.1%でした。居住年数別は、「大震災前」「大震災後」合わせた数値で実施率が高いのは、20年以上49.8%、最も低いのは、1年未満23.3%でした。

イ いつも風呂の水をためおきしているについて、「大震災前」38.1%、「大震災後」14.8%、「実施していない」45.1%。年代別は、「大震災前」65~74歳57.3%が最も高く、25~29歳26.2%が最も低い。「大震災後」50~59歳23.3%が最も高く、75歳以上8.0%が最も低い。地域別では、「大震災前」「大震災後」合わせた数値で実施率が高いのは、上今泉地域57.7%で、最も低いのは、上郷・下今泉地域44.0%でした。居住年数別は、「大震災前」「大震災後」合わせた数値で実施率が高いのは、20年以上60.8%、最も低いのは、1年未満30.0%でした。

ウ 家具や冷蔵庫などを固定し、転倒防止をしているかについて、「大震災前」34.9%、「大震災後」9.9%、「実施していない」53.8%。年代別は、「大震災前」65~74歳43.1%が最も高く、30~39歳26.5%が最も低い。「大震災後」30~39歳10.9%が最も高く、18~24歳3.9%が最も低い。地域別では、「大震災前」「大震災後」合わせた数値で実施率が高いのは、上今泉地域51.8%で、最も低いのは、本郷地域28.1%でした。居住年数別は、「大震災前」「大震災後」合わせた数値で実施率が高いのは、20年以上51.4%、最も低いのは、1年未満30.0%でした。

エ 食器棚や本棚は揺れにより、中のものが飛び出さない工夫をしている、「大震災前」22.9%、「大震災後」14.7%、「実施していない」60.9%。年代別は、「大震災前」75歳以上38.0%が最も高く、25~29歳15.5%が最も低い。「大震災後」25~29歳21.4%が最も高く、18~24歳5.2%が最も低い。地域別では、「大震災前」「大震災後」合わせた数値で実施率が高いのは、上郷・下今泉地域46.7%で、最も低いのは、社家地域30.3%でした。居住年数別は、「大震災前」「大震災後」合わせた数値で実施率が高いのは、20年以上43.2%、最も低いのは、5年以上10年未満31.2%でした。

オ 万が一、倒れてきても安全のように、家具の向きを変えているについて、「大震災前」20.3%、「大震災後」9.4%、「実施していない」68.8%。年代別は、「大震災前」75歳以上34.0%が最も高く、30～39歳17.8%が最も低い。「大震災後」75歳以上12.0%が最も高く、50～59歳5.8%が最も低い。地域別では、「大震災前」「大震災後」合わせた数値で実施率が高いのは、杉久保地域34.8%で、最も低いのは、上今泉地域22.7%でした。居住年数別は、「大震災前」「大震災後」合わせた数値で実施率が高いのは、1年以上5年未満32.0%、最も低いのは、1年未満20.0%でした。

カ 重いものは、上に置かないようにしているについて、「大震災前」43.6%が最も高く、「大震災後」13.7%、「実施していない」41.3%。年代別は、「大震災前」75歳以上60.0%が最も高く、18～24歳35.1%が最も低い。「大震災後」30～39歳17.1%が最も高く、18～24歳7.8%が最も低い。地域別では、「大震災前」「大震災後」合わせた数値で実施率が高いのは、門沢橋地域61.9%で、最も低いのは、杉久保地域52.6%でした。居住年数別は、「大震災前」「大震災後」合わせた数値で実施率が高いのは、20年以上61.3%、最も低いのは、1年未満43.4%でした。

キ 窓ガラス類に飛散防止対策をしているについて、「大震災前」8.3%、「大震災後」7.5%、「実施していない」82.7%。年代別は、「大震災前」65～74歳10.5%が最も高く、25～29歳4.8%が最も低い。「大震災後」25～29歳11.9%が最も高く、30～39歳5.1%が最も低い。地域別では、「大震災前」「大震災後」合わせた数値で実施率が高いのは、杉久保地域22.1%で、最も低いのは、本郷地域9.4%でした。居住年数別は、「大震災前」「大震災後」合わせた数値で実施率が高いのは、20年以上17.6%、最も低いのは、1年未満6.7%でした。

ク ブロック塀を点検し、倒壊を防止しているについて、「大震災前」5.2%、「大震災後」5.3%、「実施していない」88.1%。年代別は、「大震災前」75歳以上12.0%が最も高く、18～24歳2.6%が最も低い。「大震災後」25～29歳8.3%が最も高く、75歳以上2.0%が最も低い。地域別では、「大震災前」「大震災後」合わせた数値で実施率が高いのは、門沢橋地域17.9%で、最も低いのは、海西地域6.1%でした。居住年数別は、「大震災前」「大震災後」合わせた数値で実施率が高いのは、20年以上13.7%、最も低いのは、1年以上5年未満6.0%でした。

ケ 耐震診断などを行い、自分の家の危険度を把握しているについて、「大震災前」10.0%、「大震災後」5.5%、「実施していない」83.1%。年代別は、「大震災前」75歳以上16.0%が最も高く、18～24歳5.2%が最も低い。「大震災後」25～29歳9.5%が最も高く、75歳以上0.0%が最も低い。地域別では、「大震災前」「大震災後」合わせた数値で実施率が高いのは、杉久保地域22.1%で、最も低いのは、上今泉地域8.7%でした。居住年数別は、「大震災前」「大震災後」合わせた数値で実施率が高いのは、1年以上5年未満16.7%、生まれてからずっと16.7%、最も低いのは、10年以上20年未満13.1%でした。

コ 食糧や飲料水を準備しているについて、「大震災前」40.6%、「大震災後」27.3%、「実施していない」30.7%。年代別は、「大震災前」75歳以上66.0%が最も高く、30～39歳32.4%が最も低い。「大震災後」25～29歳36.9%が最も高く、75歳以上14.0%が最も低い。地域別では、「大震災前」「大震災後」合わせた数値で実施率が高いのは、社家地域73.2%で、最も低いのは、本郷地域56.3%でした。居住年数別は、「大震災前」「大震災後」合わせた数値で実施率が高いのは、生まれてからずっと69.5%、最も低いのは、1年未満56.7%でした。

サ 携帯ラジオ、懐中電灯、医薬品を準備している、「大震災前」55.6%、「大震災後」29.1%、「実施していない」13.7%。年代別は、「大震災前」65～74歳69.8%が最も高く、25～29歳36.9%が最も低い。「大震災後」30～39歳38.9%が最も高く、65～74歳21.0%が最も低い。地域別では、「大震災前」「大震災後」合わせた数値で実施率が高いのは、社家地域92.8%で、最も低いのは、海西地域80.1%でした。居住年数別は、「大震災前」「大震災後」合わせた数値で実施率が高いのは、20年以上87.0%、最も低いのは、1年未満70.0%でした。

シ 非常用持ち出し品を準備しているについて、「大震災前」31.0%、「大震災後」23.6%、「実施していない」43.9%。年代別は、「大震災前」75歳以上52.0%が最も高く、25～29歳17.9%が最も低い。「大震災後」25～29歳36.9%が最も高く、75歳以上14.0%が最も低い。地域別では、「大震災前」「大震災後」合わせた数値で実施率が高いのは、社家地域60.7%で、最も低いのは、本郷地域46.9%でした。居住年数別は、「大震災前」「大震災後」合わせた数値で実施率が高いのは、生まれてからずっと55.6%、最も低いのは、1年未満40.0%でした。

ス 貴重品などをすぐに持ちだせるよう準備しているについて、「大震災前」21.4%、「大震災後」23.0%、「実施していない」54.1%。年代別は、「大震災前」75歳以上52.0%が最も高く、40～49歳15.1%が最も低い。「大震災後」18～24歳36.4%が最も高く、60～64歳15.7%が最も低い。地域別では、「大震災前」「大震災後」合わせた数値で実施率が高いのは、門沢橋地域55.9%で、最も低いのは、本郷地域28.2%でした。居住年数別は、「大震災前」「大震災後」合わせた数値で実施率が高いのは、生まれてからずっと50.7%、最も低いのは、1年未満23.3%でした。

セ 常備薬、メガネ、補聴器など無ければ困るものを準備しているについて、「大震災前」15.5%、「大震災後」15.5%、「実施していない」67.5%。年代別は、「大震災前」75歳以上34.0%が最も高く、30～39歳10.5%が最も低い。「大震災後」18～24歳23.4%が最も高く、60～64歳11.1%が最も低い。地域別では、「大震災前」「大震災後」合わせた数値で実施率が高いのは、門沢橋地域41.7%で、最も低いのは、本郷地域15.6%でした。居住年数別は、「大震災前」「大震災後」合わせた数値で実施率が高いのは、20年以上36.6%、最も低いのは、1年未満20.0%でした。

ソ 非常用トイレを準備しているについて、「大震災前」7.9%、「大震災後」8.0%、「実施していない」82.7%。年代別は、「大震災前」40～49歳14.3%が最も高く、25～29歳4.8%が最も低い。「大震災後」18～24歳10.4%が最も高く、30～39歳6.5%が最も低い。地域別では、「大震災前」「大震災後」合わせた数値で実施率が高いのは、柏ヶ谷地域18.0%で、最も低いのは、社家地域10.7%でした。居住年数別は、「大震災前」「大震災後」合わせた数値で実施率が高いのは、5年以上10年未満20.0%、最も低いのは、1年未満10.0%でした。

タ 家族と連絡方法などを決めているについて、「大震災前」24.4%、「大震災後」23.3%、「実施していない」50.6%。年代別は、「大震災前」75歳以上36.0%が最も高く、18～24歳16.9%が最も低い。「大震災後」30～39歳29.5%が最も高く、75歳以上10.0%が最も低い。地域別では、「大震災前」「大震災後」合わせた数値で実施率が高いのは、杉久保地域51.6%で、最も低いのは、本郷地域43.8%でした。居住年数別は、「大震災前」「大震災後」合わせた数値で実施率が高いのは、10年以上20年未満49.7%、最も低いのは、1年未満43.4%でした。

チ 防災のしおりなどで地震防災情報を確認しているについて、「大震災前」16.5%、「大震災後」16.9%、「実施していない」65.1%。年代別は、「大震災前」75歳以上28.0%が最も高く、18～24歳6.5%が最も低い。「大震災後」25～29歳22.6%が最も高く、60～64歳12.4%が最も低い。地域別では、「大震災前」「大震災後」合わせた数値で実施率が高いのは、門沢橋地域41.7%で、最も低いのは、社家地域28.6%でした。居住年数別は、「大震災前」「大震災後」合わせた数値で実施率が高いのは、20年以上36.4%、最も低いのは、1年未満20.0%でした。

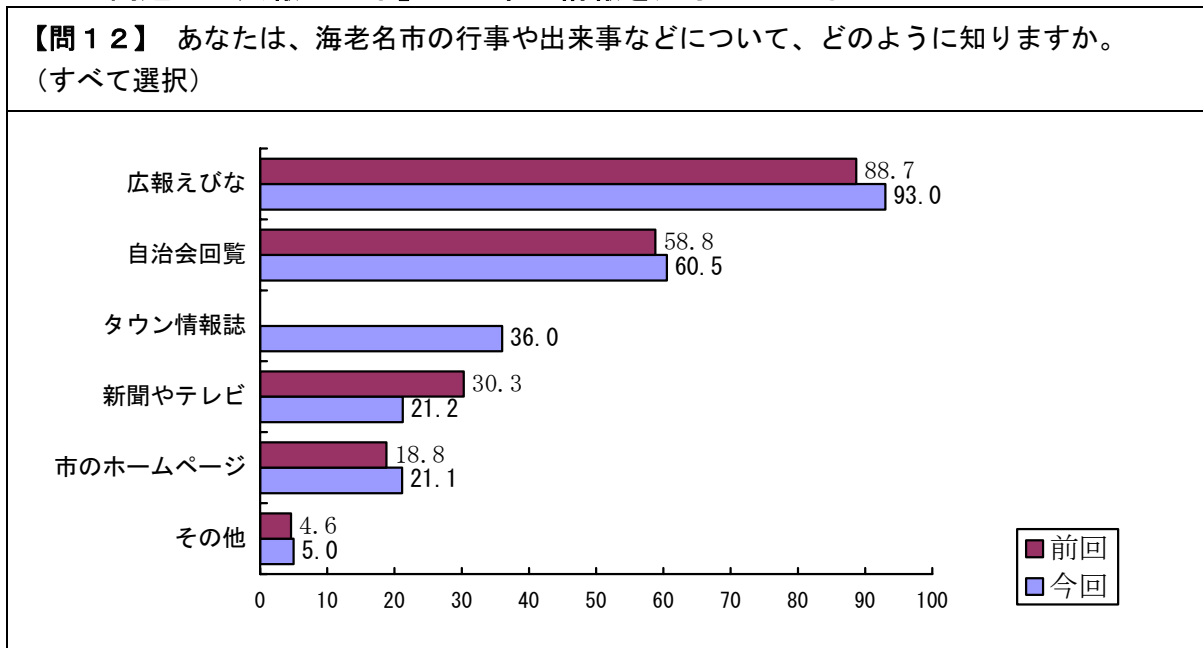
ツ 近くの公園や学校など避難する場所を決めているについて、「大震災前」34.9%、「大震災後」18.9%、「実施していない」44.6%。年代別は、「大震災前」75歳以上50.0%が最も高く、25～29歳21.4%が最も低い。「大震災後」25～29歳25.0%が最も高く、75歳以上12.0%が最も低い。地域別では、「大震災前」「大震災後」合わせた数値で実施率が高いのは、上今泉地域61.7%で、最も低いのは、本郷地域43.7%でした。居住年数別は、「大震災前」「大震災後」合わせた数値で実施率が高いのは、10年以上20年未満56.4%、最も低いのは、1年未満36.7%でした。

テ 救出・救助などの機材を準備しているについて、「大震災前」2.9%、「大震災後」5.2%、「実施していない」90.0%。年代別は、「大震災前」25～29歳4.8%が最も高く、18～24歳1.3%が最も低い。「大震災後」25～29歳7.1%が最も高く、50～59歳3.9%が最も低い。地域別では、「大震災前」「大震災後」合わせた数値で実施率が高いのは、門沢橋地域13.1%で、最も低いのは、本郷地域3.1%でした。居住年数別は、「大震災前」「大震災後」合わせた数値で実施率が高いのは、1年以上5年未満100.0%、最も低いのは、1年未満0.0%でした。

4 「広報・情報化」

(1) 市から発信される情報の情報源

9割超が「広報えびな」から市の情報を入手している



市の情報の入手方法について、最も高かったのは「広報えびな」93.0%で、続いて「自治会回覧」60.5%、「タウン情報誌」36.0%となっている。

性別で見ると、男女ともに「広報えびな」が最も高い。また、「新聞やテレビ」「市のホームページ」は男性の方が高く、「広報えびな」「自治会回覧」「タウン情報誌」は女性の方が高い数値であった。

年代別では、年代を問わず「広報えびな」が最も高い数値であった。

居住年数別は、「自治会回覧」では、20年以上74.2%が最も高く、1年未満30.0%が最も低い数値であった。

(2) 市の広報媒体の満足度

広報えびなは6割超が「ふつう」と回答

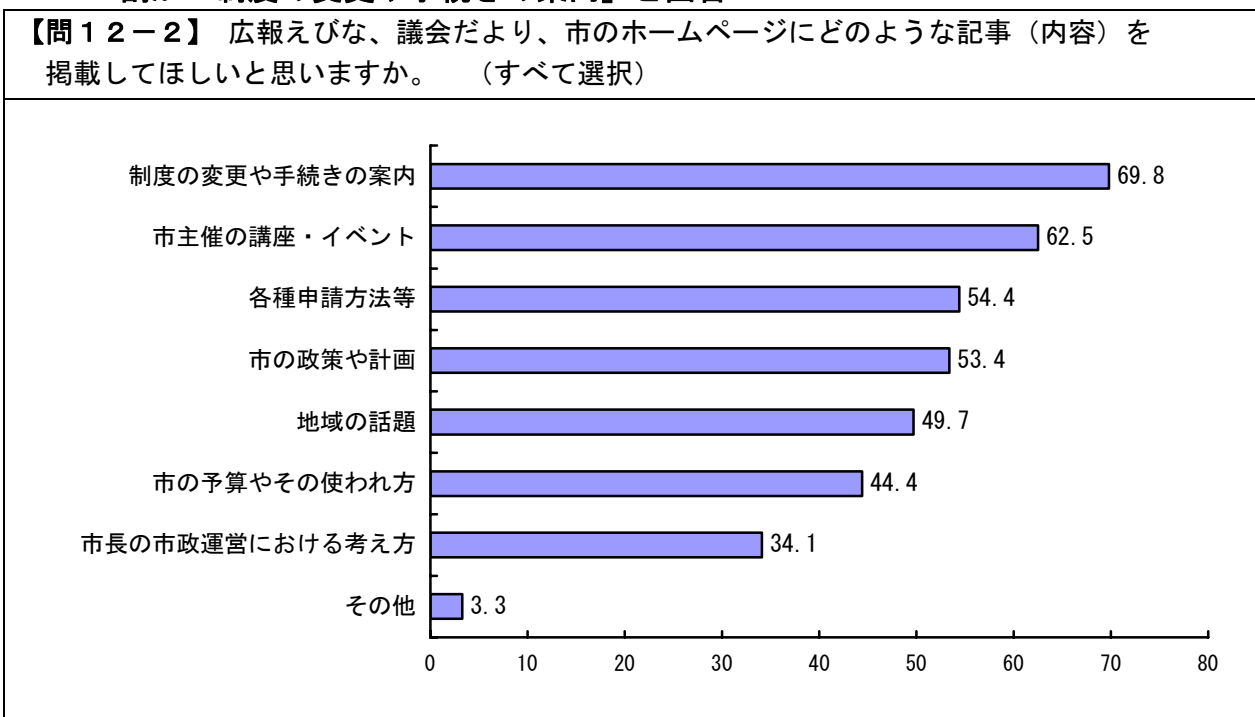
【問12-1】 現在の広報えびな、議会だより、市のホームページの内容についてどう思われますか。(項目ごとに1つ選択)

	わかりやすい	ふつう	わかりにくい	見ていない	無回答
ア. 広報えびな	26.9	63.8	3.3	4.3	3.3
イ. 市のホームページ	4.8	28.4	9.7	40.1	17.0

現在の広報えびな、市のホームページの内容についてどう思われるかについて、広報えびな、では「ふつう」63.8%、市のホームページでは「見ていない」40.1%という評価が最も高かった。続いて、広報えびなでは「わかりやすい」26.9%の回答が高かったが、市のホームページは「ふつう」28.4%であった。また、市のホームページでは「わかりにくい」が「わかりやすい」を上回る結果となった。

広報えびなは、全項目において「ふつう」という評価が最も高かった。市のホームページについては、性別・年代別、地域別、居住年数別で見ても、ほとんどの項目で最も高かったのが「見ていない」であった。

(3) 市の広報媒体で掲載してほしい内容 7割が「制度の変更や手続きの案内」と回答



広報やホームページなどで掲載してほしい内容について、「制度の変更や手続きの案内」69.8%で最も高く、続いて「市主催の講座・イベント」62.5%、「各種申請方法等」54.4%となっている。

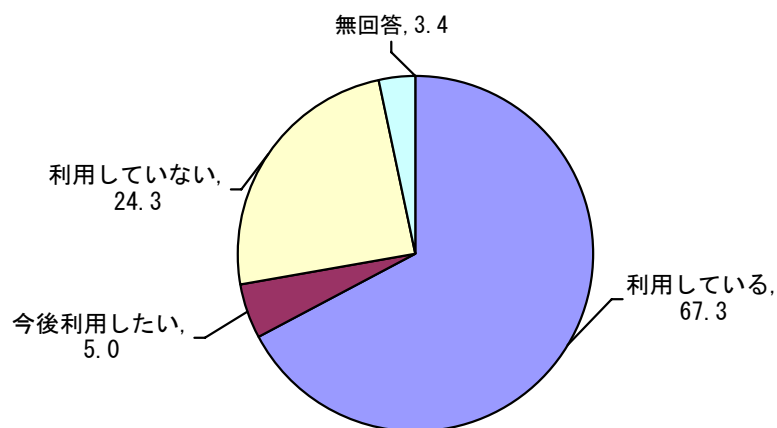
1位の「制度の変更や手続きの案内」は、年代別は50～59歳が73.8%と高く、性別・年代別では女性・75歳以上81.0%と最も高い。地域別では門沢橋地域75.0%が最も高い数値となっている。

2位の「市主催の講座・イベント」は年代別で見ると、全ての年代で50～60%台。性別・年代別では、男性・60～64歳、女性・40～49歳が共に70.1%と最も高い数値である。地域別では本郷地域78.1%が最も高い数値である。

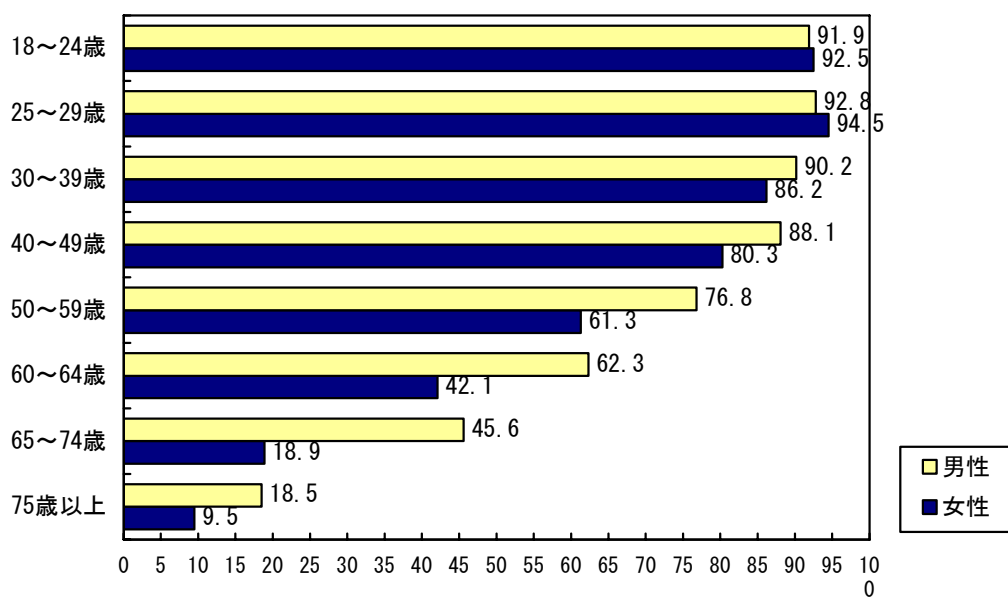
3位の「各種申請方法等」は性別・年代別では、男性の75歳以上を除く年代で40～60%台であるのに対して、75歳以上では7.4%で最も低い数値であった。

(4) インターネットの利用状況
約7割がインターネットを利用

【問13】 あなたはインターネットを利用していますか。(1つ選択)



インターネット利用者



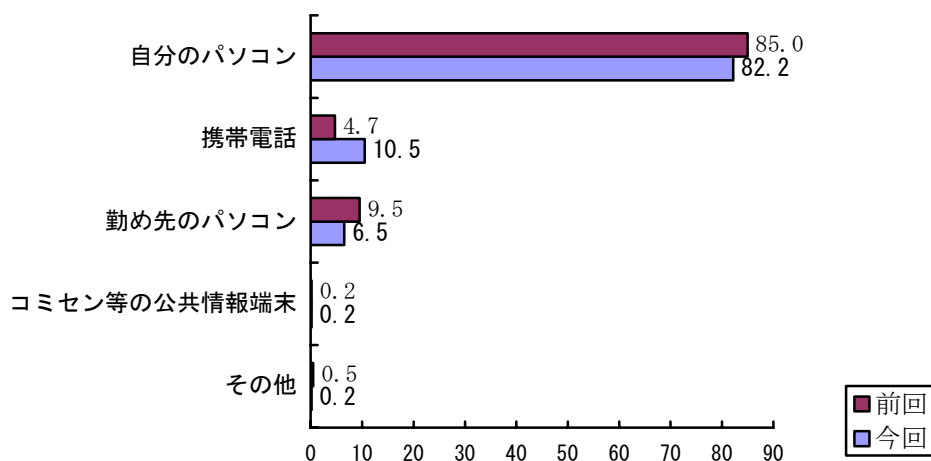
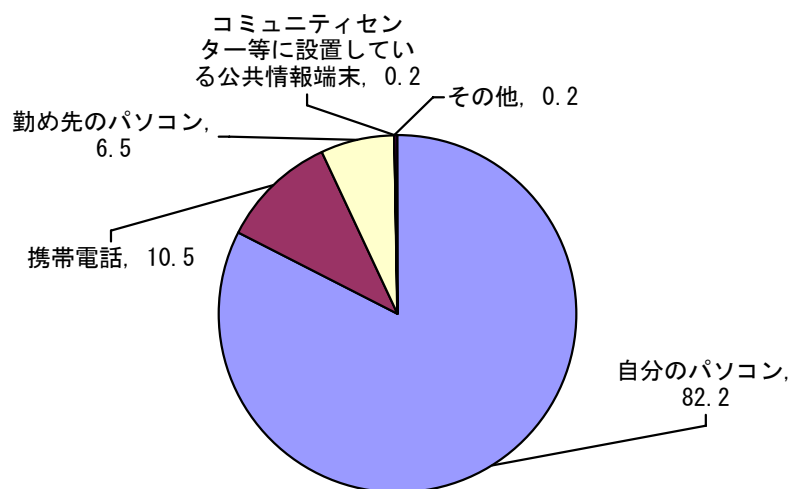
インターネットを利用していると回答したのは67.3%であり、前回調査57.5%より9.8ポイントの増加となった。

利用状況を性別ごとに見てみると、男性72.3%、女性63.7%となっている。年代別では、25～29歳が94.0%で最も高い。性別・年代別で見ると男性では60～64歳まで6割に達しているのに対し、女性は60歳代から5割を切っている。

(5) インターネットの利用端末の種類
8割超が自分のパソコンを利用している

(N=901)

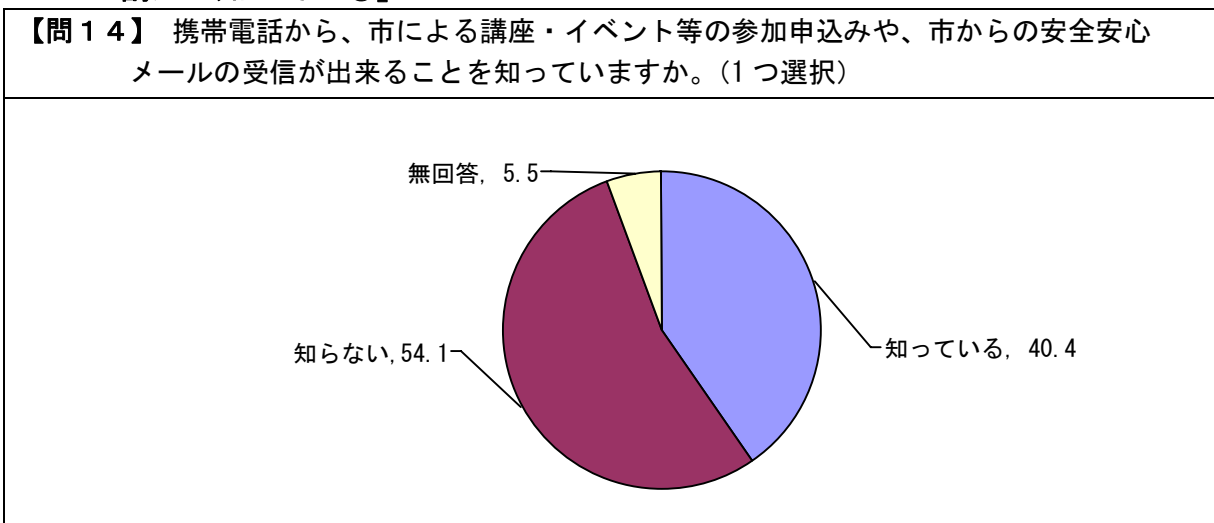
【問13-1】 利用度の一番高いものはどれですか。(1つ選択)



利用端末は、「自分のパソコン」が82.2%で最も高く、「携帯電話」10.5%を合わせると9割が「自分の端末」を利用していることになる。また、「携帯電話」利用は、前回調査は4.7%であったが、今回調査では10.5%と5.8ポイント増加している。

性別で見ると、男女ともに「自分のパソコン」が最も高くなっており、年代別で見てもほぼ全世代において「自宅のパソコン」を利用している。

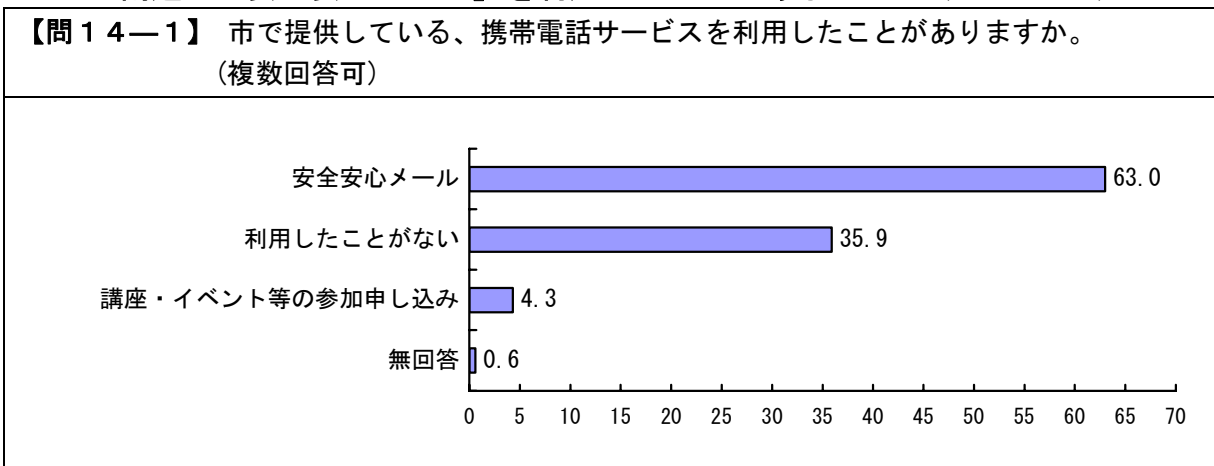
**(6) 携帯電話から、市の講座等の参加申し込み・安全安心メールの認知度
4割が「知っている」**



携帯電話から、市の講座等の参加申し込みや安全安心メールの受信が出来ることを知っているかについて、「知っている」40.4%、「知らない」54.1%と若干「知らない」が上回る結果となった。

性別で見ると、「知っている」が男性34.1%、女性46.2%であり、女性が12.1ポイント高い数値であった。年代別では、「知っている」が40～49歳61.8%で最も高い数値である。

**(7) 携帯電話サービスの利用状況
6割超が「安全安心メール」を利用したことがある (N=541)**



携帯電話サービスの利用について、「安全安心メール」63.0%で最も高く、「利用したことがない」35.9%、「講座・イベント等の参加申し込み」4.3%となっている。

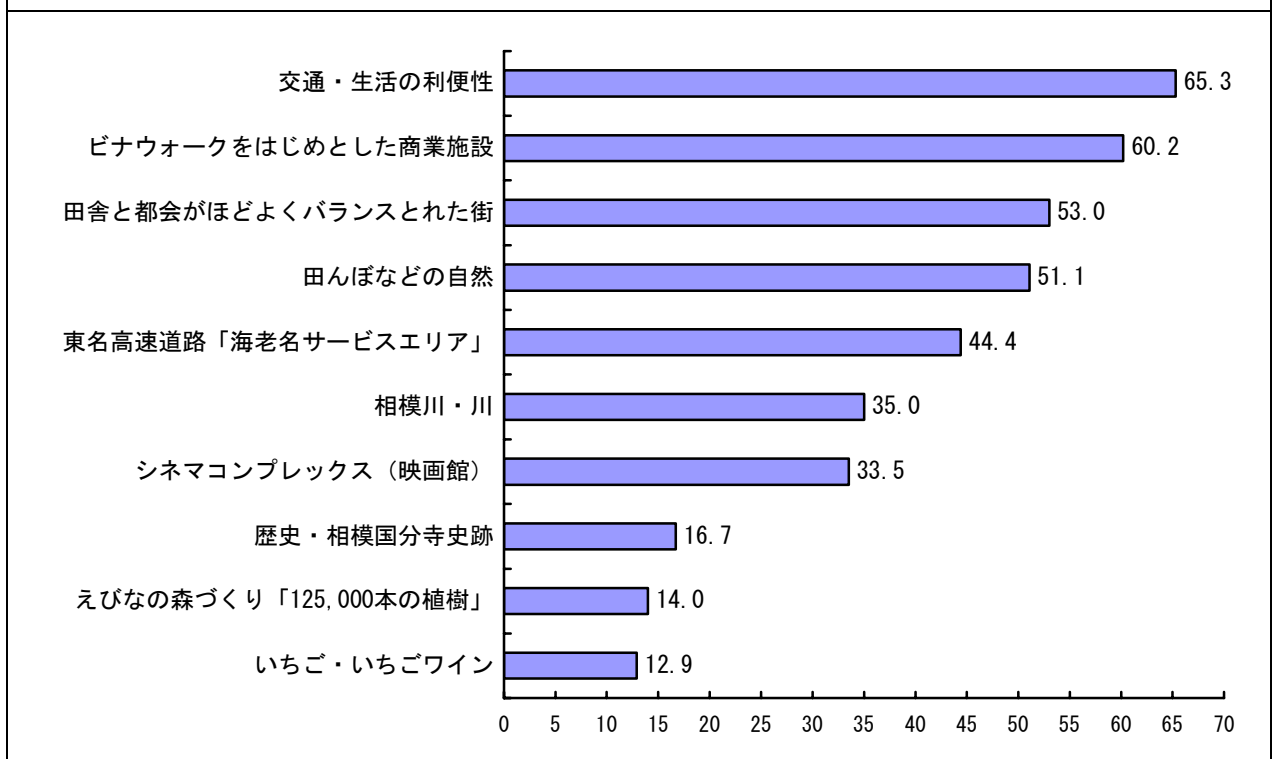
性別で見ると、「安全安心メール」が男性57.4%、女性66.7%であり、女性が9.3ポイント高い数値であった。また、「講座・イベント等の参加申し込み」では男性5.7%、女性3.3%であり、男性が2.4ポイント高い数値であった。年代別では、「安全安心メール」が40～49歳81.0%で最も高い数値である。

5 「都市ブランド」

(1) 海老名市の魅力

「交通・生活の利便性」「ビナウォークをはじめとした商業施設」が6割超

【問15】 あなたは、海老名市のどのようなところに強い魅力を感じますか。(すべて選択)



海老名市で強く魅力を感じる場所は、「交通・生活の利便性」65.3%で最も高く、次いで「ビナウォークをはじめとした商業施設」60.2%、「田舎と都会がほどよくバランスとれた街」53.0%が続いている。

「交通・生活の利便性」の年代別では、75歳以上では70.0%で、他の全ての年代でも60%を超えている。地域別では、門沢橋地域と本郷地域を除いた地域では5割以上となっているが、門沢橋地域39.3%、本郷地域31.3%と他の地域より低い数値となっている。居住年数別ではどの層も約6割となっている。

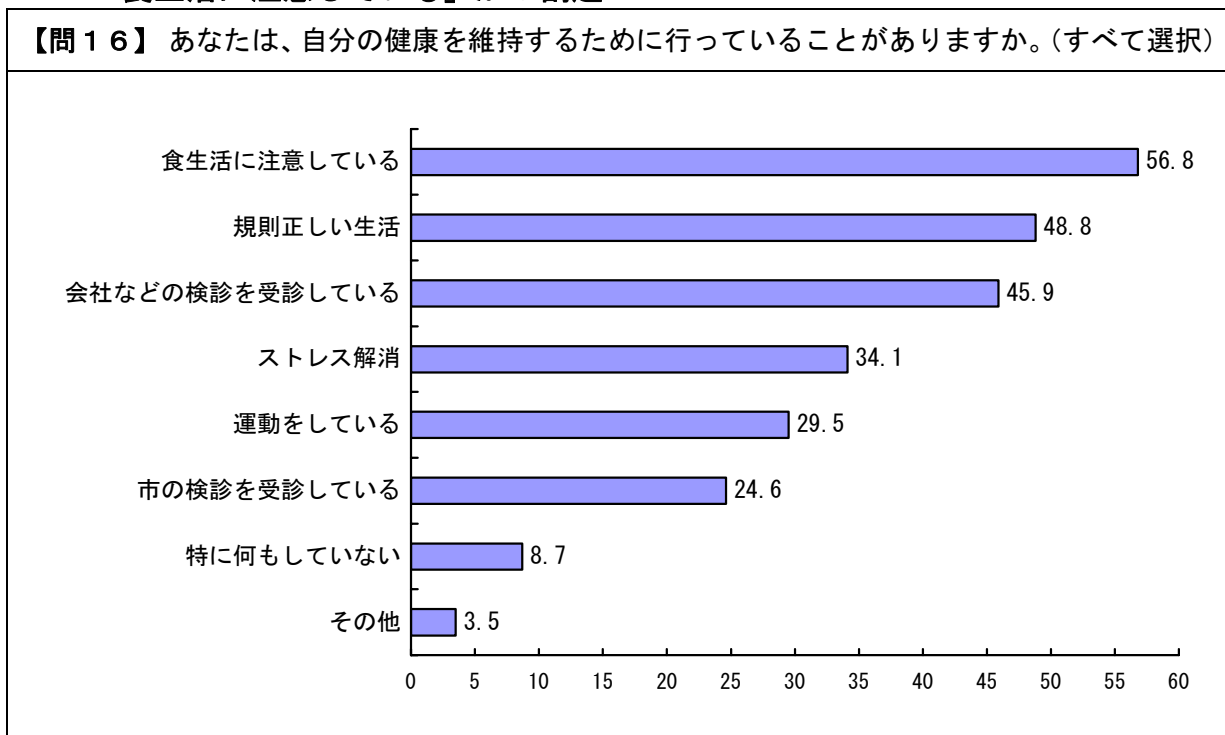
「ビナウォークをはじめとした商業施設」は、60～64歳46.4%を除く年代で5割を超える高い評価となっている。地域別では、門沢橋地域を除く地域が5割を超えているが、門沢橋地域44.0%となっている。

「田舎と都会がほどよくバランスとれた街」の地域別では、門沢橋地域38.1%が最も低い結果となっている。

6 「健康」

(1) 健康の維持について

「食生活に注意している」が5割超



健康維持のために行っていることは「食生活に注意している」56.8%が最も高く、「規則正しい生活」48.8%、「会社などの検診を受診している」45.9%が続いている。

性別では、男性では1位「会社などの検診を受診している」2位「食生活に注意している」3位「規則正しい生活」で、女性では1位「食生活に注意している」2位「規則正しい生活」3位「会社などの検診を受診している」であった。

年代別に見ると、「運動をしている」は65～74歳41.5%で最も高い。「会社などの検診を受診している」は、40～49歳59.7%が最も高く、「市の検診を受診している」は、75歳以上66.0%と65～74歳50.4%が高い数値である。

地域別では、「運動をしている」は、本郷地域18.8%が最も低い。「市の検診を受診している」は、上郷・下今泉地域16.0%、杉久保地域17.9%が低い。

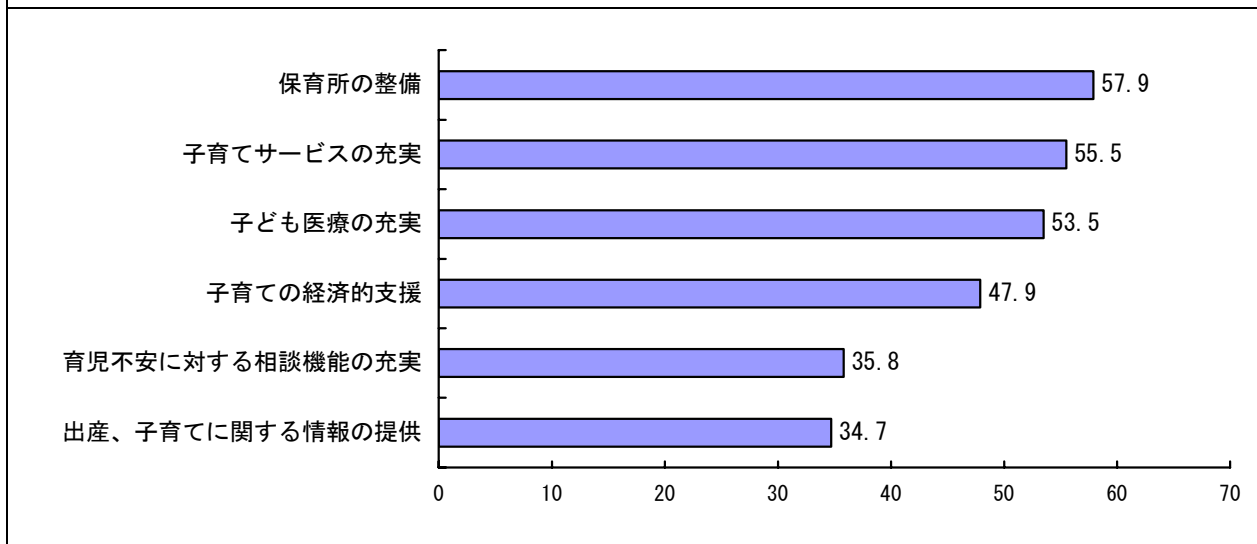
居住年数では、「市の検診を受診している」は1年未満3.3%が最も低い数値である。

7 「少子化対策」

(1) 取り組んで欲しい少子化対策

「保育所の整備」「子育てサービスの充実」「子ども医療の充実」が5割超

【問17】 あなたが海老名市の少子化対策として、取り組んで欲しいものをお答えください。
(すべて選択)



海老名市の少子化対策として、取り組んでほしいものについて、「保育所の整備」57.9%が最も高く、「子育てサービスの充実」55.5%、「子ども医療の充実」53.5%が続いている。

性別でも、男女共に1番目「保育所の整備」、2番目「子育てサービスの充実」、3番目「子ども医療の充実」で、全体の結果と同じ順位であった。

年代別に見ると、「子育ての経済的支援」は40歳代までが高い。性別・年代別に見ると、「子育ての経済的支援」は、30～39歳女性63.2%、30～39歳の男性66.7%で高い。

地域別では、「保育所の整備」が、どの地域においても高い数値であり、「子ども医療の充実」は本郷地域で高い数値となっている。

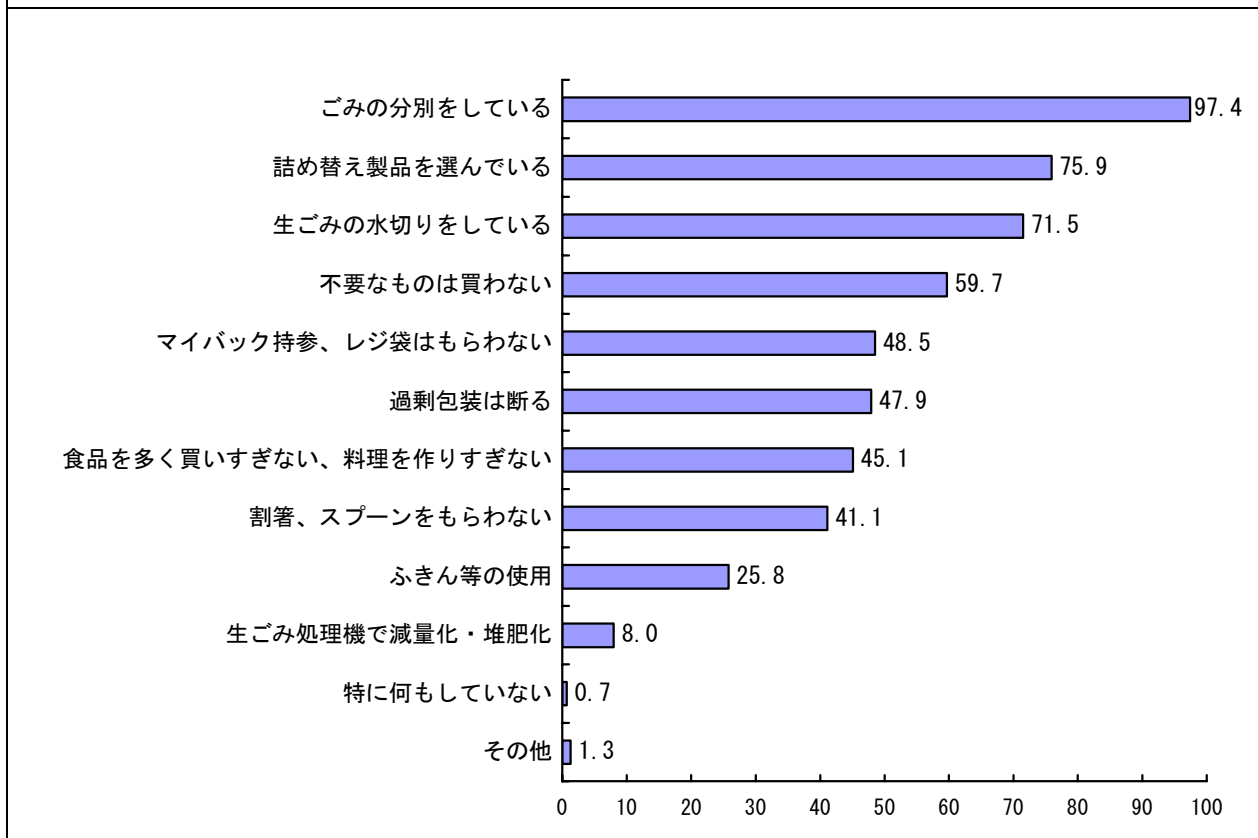
居住年数では、「保育所の整備」は1年未満が最も高く、「子育てサービスの充実」は1年以上5年未満が高くなっている。

8 「環境・資源対策」

(1) ごみ減量化の推進について

「ごみの分別をしている」が9割超

【問18】 ごみの減量やリサイクルの取組みについて、どのようなことを行っていますか。
(すべて選択)



ごみの減量化やリサイクルの取組みについて行っていることは、「ごみの分別をしている」97.4%が最も高く、「詰め替え製品を選んでいる」75.9%、「生ごみの水切りをしている」71.5%が続いている。「ごみの分別をしている」は、年代別、性別、性別・年代別、地域別、居住年数別において90%を超える最も高い数値となっている。

性別では、上位4位までは男女とも上記の順位と同じであった。女性の方が男性より数値が高く差が大きい項目は、「詰め替え製品を選んでいる」「マイバック等を持参し、レジ袋はもらわない」「割箸、スプーンをもらわない」「過剰包装は断る」という結果であり、買い物の際に関係してくる項目が目立つ。

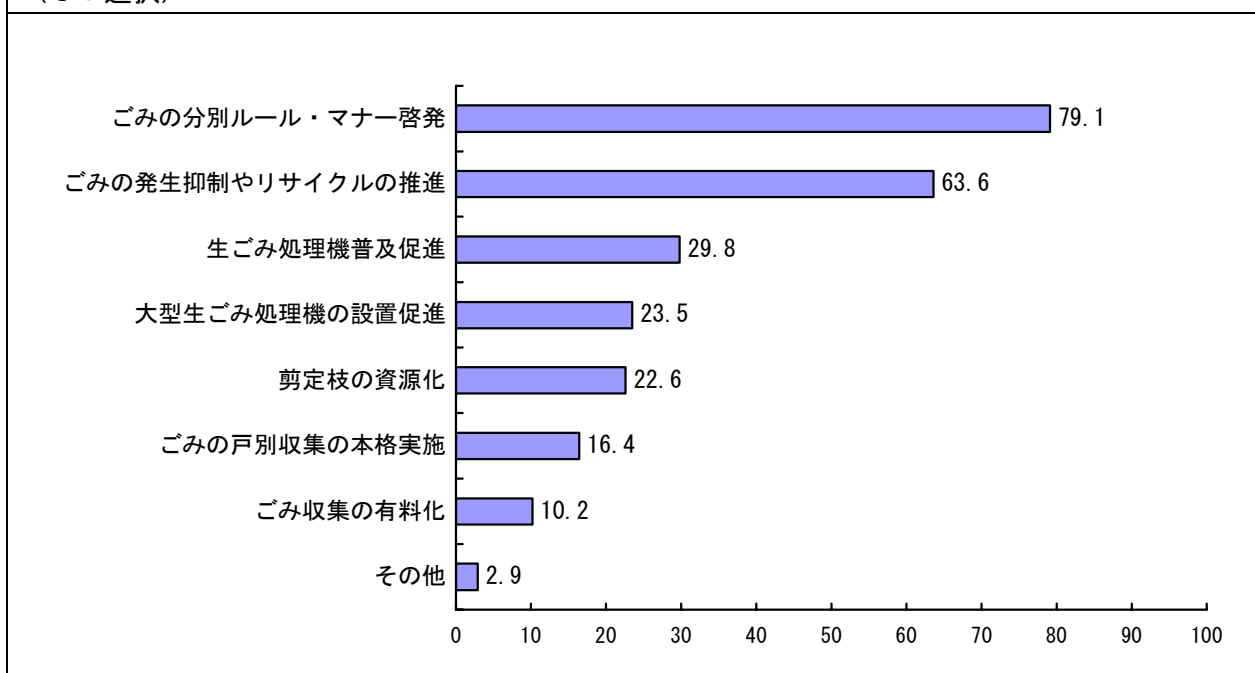
年代別での差は、どの項目においてもあまり見受けられないが、「詰め替え製品を選んでいる」は、18～40歳代では約80%だが、50～75歳以上では60～70%台にとどまっている。

地域別での差は、どの項目においてもあまり見受けられないが、「生ごみの水切りをしている」は、ほとんどの地域で70%程度の高い数値であるのに対して、社家地域50.0%と最も低い結果となっている。

(2) ごみの減量化について

「ごみの分別ルール・マナー啓発」が約8割

【問18-1】 今後、ごみ減量化を進めるにあたり、どのような取組みが重要だとおもいますか。
(3つ選択)



ごみ減量化を進めるための取組みについて、「ごみの分別ルール・マナーの啓発」79.1%が最も高く、「ごみの発生抑制・再使用・再生利用の推進」63.6%が続いている。

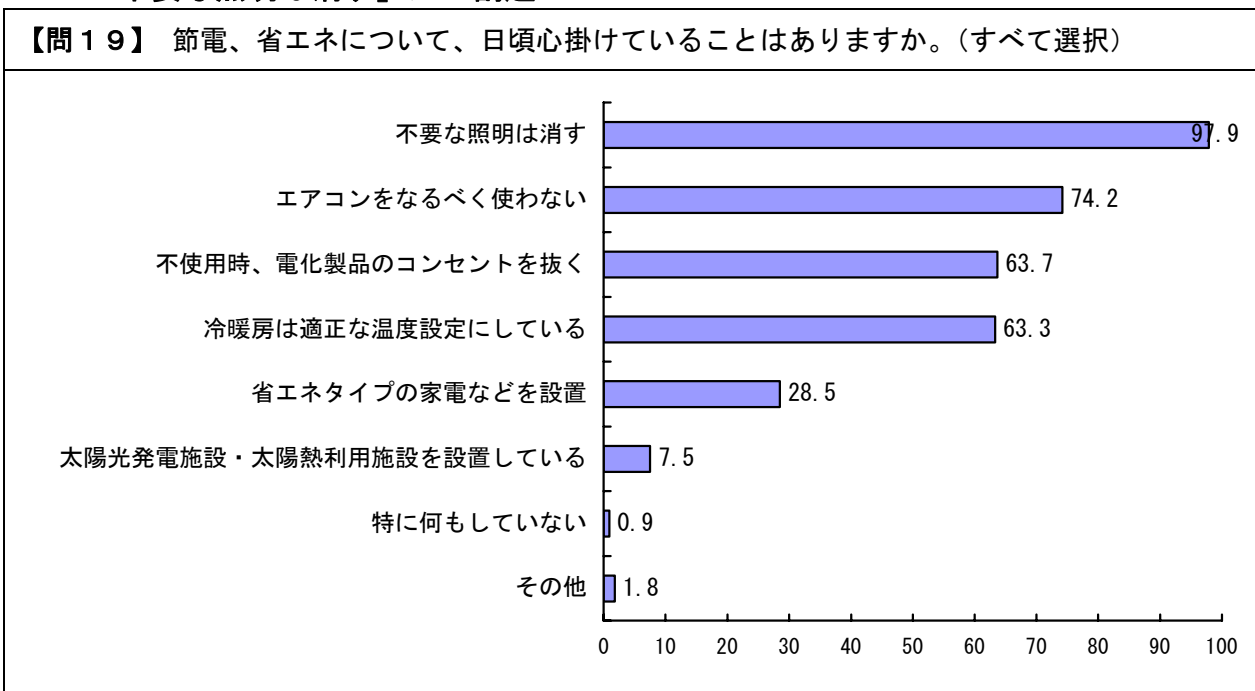
性別で数値の差は、どの項目においてもあまり見受けられない。順位についても全体とほぼ同じであった。

年代別では、「生ごみ処理機の普及促進」では20～30%台であったのに対して、「大型生ごみ処理機の設置促進（大型マンション等への設置）」では、75歳以上6%から年代が下るにつれて高くなり、18～24歳では41.6%となっている。「剪定枝の資源化」では75歳を除くと、年代が上がるにつれて数値が高くなっていく。

地域別では、「大型生ごみ処理機の設置促進（大型マンション等への設置）」は本郷地域6.3%で最も低く、その他の地域では10～30%台であった。

居住年数別では、「大型生ごみ処理機の設置促進（大型マンション等への設置）」は1年未満が50.0%と最も高く、その他の居住年数では20%程度であった。

(3) 節電、省エネについて
「不要な照明は消す」が9割超



節電・省エネについて、日頃心がけていることについて、「不要な照明は消す」97.9%が最も高く、「エアコンをなるべく使わない」74.2%、「不使用时、電化製品のコンセントを抜く」63.7%が続いている。

性別では、「不使用时、電化製品のコンセントを抜く」は男性56.1%に比べ、女性70.3%と女性の方が高い結果であった。

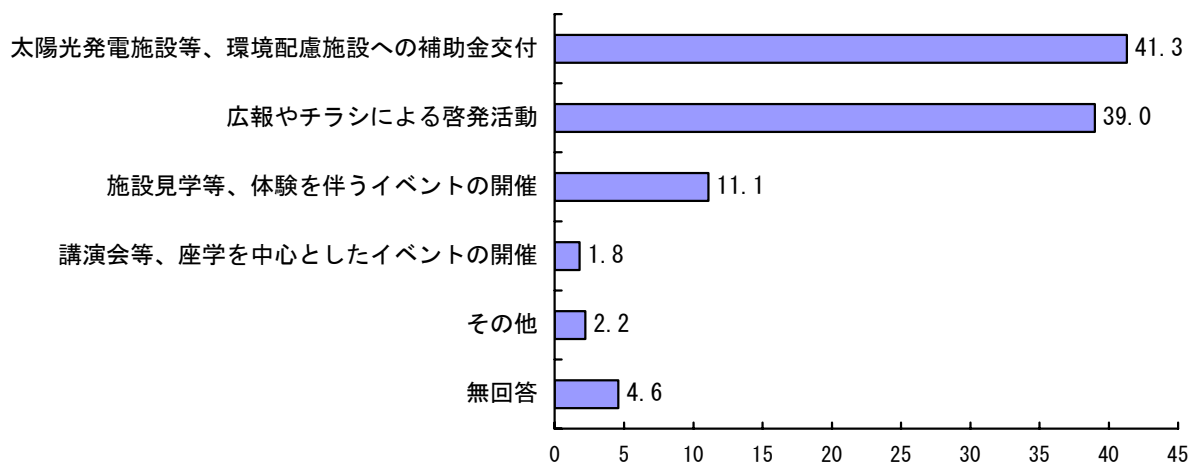
年代別では、「不要な照明は消す」は、全ての年代で90%台の高い数値であるが、特に65～74歳では100%であった。

地域別は、「太陽光発電施設・太陽熱利用施設を設置している」が本郷地域18.8%、社家地域16.1%であり、他の地域では、10%に未達となっている。

(4) 節電、省エネ等の環境意識について

「太陽光発電施設等の補助金交付」「広報やチラシによる啓発」が4割

【問19-1】節電、省エネ等の環境意識をさらに高めるために、市に期待することはありますか。
(1つ選択)



節電、省エネ等の環境意識を高めるために、市に期待することは、「太陽光発電施設、環境配慮施設への補助金交付」41.3%が最も高く、「広報やチラシによる啓発活動」39.0%、「施設見学等、体験を伴うイベントの開催」11.1%が続いている。

性別で見ると、男性は「太陽光発電施設等、環境配慮施設への補助金交付」45.2%が最も高く、女性は「広報やチラシによる啓発」41.2%が最も高い結果となった。

年代別では、18～24歳、25～29歳、30～39歳、40～49歳では「太陽光発電施設、環境配慮施設への補助金交付」が最も高く、50～59歳、60～64歳、65～74歳、75歳以上では「広報やチラシによる啓発」が最も高い結果となった。

海老名市政アンケート調査

〈平成23年度調査〉

平成23年9月発行

調査実施及び発行

海老名市役所 総務部広聴相談課広聴相談係

〒243-0492 海老名市勝瀬175番地の1

TEL 046-235-4567
